

〈資 料〉

ある元日本軍「慰安婦」の回想 (7)

——李玉善さんからの聞き取り——

吉 見 義 明

はじめに

- I. 2016年3月21日の聞き取り(於：ナヌムの家)
- II. 2016年3月22日の聞き取り(於：ナヌムの家)
- III. 2016年7月31日の聞き取り(於：ナヌムの家)

はじめに

本誌前号でも記したように、元日本軍「慰安婦」のハルモニたちは、もう高齢である。いまの内に話を聞いておかなければ聞き取りは不可能になると思い、私は李玉善さんと「ナヌムの家」に無理をお願いして、2016年3月21日・22日と7月31日に李玉善さんの証言を聞いた。通訳は、今回も梁澄子さんヤンチンジャさんをお願いした。玉善さんは、何度も日本に行って証言しており、また、李玉善「五八年ぶりに帰国を果たして」(西野瑠美子・金富子編『証言 未来への記憶』南・北・在日コリア編・上巻、明石書店、2006年)という証言記録もあるが、今回の証言には、いくつかの新しい事実が含まれている。

李玉善さんの略歴を記しておきたい。

*1927年旧暦10月10日、慶尚南道釜山府賈水洞キョンサンナムド プサン ブホスに生まれる。八人兄弟(男五人・女三人)の2番目(兄の次)。2016年3月現在、満88歳。父は日雇い労働者だった。貧しくて普通学校(小学校)に通えなかった。

*1942年頃(数え16歳)、釜山のうどん屋の養女として出される。ついで、蔚山の飲み屋に売られる。

*1942年7月頃(数え16歳)お使いに出された時、二人の男に略取され、中国東北、延吉の東飛行場で、2、3ヵ月使役される。

*1942年頃、延吉市内の慰安所に連行される。抵抗したので、中国人経営の売春宿へ売り飛ばされる。ここから転売されて、元の慰安所へ。こうして、借金が積み重なる。慰安所では「トミ」とか「トミコ」と呼ばれる。

*1942年か、1943年頃、慰安所が郊外に移転。お使いに出された時、逃亡し、捕まって折檻される。

*1945年8月、ソ連侵攻により、軍人に率いられて山中に逃亡。ここで捨てられる。以前に中国人経営の売春宿で知り合っていた朝鮮人男性に再会し、結婚。夫はまもなく軍隊に入隊し、北朝鮮へ、靴工場などで働き、夫の家族を支える。

*1957年頃、朝鮮人男性と再婚。この夫は1999年に死亡。

*2000年6月、韓国に移住。

李ハルモニの記憶は鮮明であることが特徴で、3月21日と22日には詳しく話された。7月31日に

は、少し前に倒れて腰の骨を骨折されたこともあって、苦しそうで、応答は簡潔だったが、正確に話された。

そのようなヒアリングの中で、もっとも注目すべきところは、以下の諸点であろう。

- ①李玉善さんは、最初に、うどん屋に養女として出され（実際は家政婦）、ついで、飲み屋に人身売買された。飲み屋にいる時に略取され、延吉の東飛行場で使役された。
- ②慰安所に入れられたのは、略取の直後ではなく、飛行場で使役され、そこでのひどい使役に抗議している時に、解放するとだまされて、慰安所に入れられた。
- ③慰安所では、衣服代などで借金が生じ、民間の売春宿への人身売買、そこから慰安所への転売などをへて、借金が累増していった。楼主からお金をもらったことはない。民間の売春宿では、梅毒をうつされ、治療に苦勞することになる。
- ④郊外へ引越した慰安所にいる時、楼主からよくお使いに出された。この過程で日本語や中国語を覚えていった。慰安所から逃亡したことがあったが、捕まって連れ帰され、激しい暴行を受けた。
- ⑤慰安所の様子は、具体的には、聞き取りを参照していただきたいが、よく記憶されている。しかし、もっとも辛かったことについては話されなかった。
- ⑥ソ連軍侵入後、慰安所から山中に連れて行かれ、そこに遺棄された。知り合いの朝鮮人に再会し、結婚して、中国東北でその家族を支えた。

レコーダーからの起こしと翻訳は梁澄子さんをお願いした。その意味で、本稿の作成も多くを梁さんに負っており、成果があるとすれば、その功

績は同氏に帰すべきである。全体の構成は私が行った。文責が私にあることはいうまでもない。（なお、本文中、李は李玉善さん、梁は梁澄子さんのことである。〔 〕は梁さんが入れた補註である。聞き取りは、声が小さいため一部聴取不能のところがあるが、そこを除き、李ハルモニの証言をできるだけ忠実に再現した。）

末筆ながら、辛い思い出を語ってくださった李玉善ハルモニに厚くお礼申し上げたい。また、仲介の労をとってくださった「ナヌムの家」所長の^{アンソングン}安信権さん、通訳と記録の起こし・翻訳をしていた梁澄子さんに厚くお礼申し上げたい。

*本稿は、平成26年度（2014年度）基盤研究（B）（一般）「日本軍「慰安婦」制度と米軍の性売買政策・性暴力の比較研究」（研究代表者林博史、課題番号26283014）の研究成果の一部である。

I. 2016年3月21日の聞き取り（於：ナヌムの家）

生い立ちから人身売買されるまで

李 もう何も話したくない。ハルモニたちのこと関係ないって言ってるのに、話してどうするの。

吉見 辛いお話を何度も聞くことになり申し訳ありませんが、歴史の記録としてハルモニのお話をきちんと残しておきたいので、よろしく願います。

李 私は中国から戻ってきました。韓国語もうまくできません。日本が、自分たちはハルモニたちを相手にしないって言うから寂しいですよ。私が中国からここに出て来てテレビを見たら、日本の学生たちが自分の国の歴史を知らないってやっただんですよ。可哀想じゃない。私は思うんです。日本人がみんな悪いわけではなくて、政府が悪い。学校で教えないから子どもたちが歴史を知らない。きちんと教えてあげないと、それなのに、亡くなったハルモニたちの慰霊碑を建てろ、教科書をきちんと変えろって日本に言っても、やらな

いじゃない。教科書を変えないで、ハルモニの話
をあげもしないで、何をあげているか、「独島は
日本の領土」これだけあげているって言うじゃ
ない。日本でどうやって習っているのかってこと
ですよ。

吉見 私は、大学でハルモニたちの話を学生
たちに正確に伝える努力をしています。そこで、
ハルモニのお話を聞きたいのですが、まず、
ハルモニの干支は何でしょうか。

李 兎年。1927年生まれ。韓国の年〔数え年〕
だと90歳。日本の年だと1歳引かないといけ
ない、
そうですよ。

吉見 何月何日生まれですか。

李 私たちは朝鮮の暦〔旧暦〕で言う。

梁 はい、旧暦で？

李 10月10日。

吉見 お生まれになったのは、釜山府の寶水洞
合っていますか。

李 うん。

吉見 お父さんはどんな仕事？

李 お父さんは私と同じで学がなかったから
普通の職業はなくて、日雇い労働をしてた
んだけど、お父さんも、大阪で金を稼ごう
と思って行ったことがある。それで私がこ
こに来てから、お父さんが働いた大阪に
一度行ってみたいと思ってずっと待って
たんだけど、それで行って来た。〔戦後
に〕大阪は5回くらい行った。

東京の大学でも学生たちに話をしたよ。
その大学は先生が韓国人の先生だった。
私がなぜ学校に行くかと言うと、青年
たちがみんなこの問題を知らなきゃ
ならないと思うから。それで日本列島
いろんなところにたくさん行ったけど、
大学のあるところには全部行った。

吉見 ハルモニは学校に通いたいと思
っていたようですが。

李 そのために私が日本人に連れて
行かれたんだよ。学校に行かれない
ために。どういうことかと言うと、
私が学校に行きたいと言ったらお母
さんが、お前が学校に行ったら、
うちはこんなに貧乏でお金がないの
に、お前の学費は誰が出すんだ、

学校には行かせられないよ。私は、
部屋に座り込んで、ご飯も食べない
でずっと泣いてた。学校に行きた
くて、そんなふうに7歳の時から泣
き始めて、15歳まで泣いてた。学
校に行きたくて、あの頃、私の頭は
聡明だったのよ。でも、学校には
行けなくて、よその家に行ったのよ。
よその家に食母〔家政婦〕で行
ったんだよ、ご飯を作る家政婦。
釜山からどこに行ったかと言うと、
蔚山。

梁 最初に食母で行ったところが釜
山ですか、蔚山ですか。

李 釜山で生まれてどこにも行
ったことがない。行ったこともな
いし、見たこともないし、聞いた
こともない。市内で暮らしてた
から何も知らない。その間に行
ったところはある。でもそんな
ことは話さないで、簡単に要点
だけ話してあげる。それで蔚山
のよその家に行ったんだけど、
仕事ができないと言ってひどく
いじめられたよ。怒られて、
この年になってどうして何も
できないんだと。

その家は何をやっている家か
と言うと、飲み屋。すごく大き
な二階建ての家で、妓生たちが
来て、チャンゴなんか叩いて歌
を歌ったりしてお酒を売る家。
そういう家で家政婦の仕事をした。
その家でいつも怒られていじ
められたんだけど、ある日、
主人がお使いに行けと、お
使いに行っ

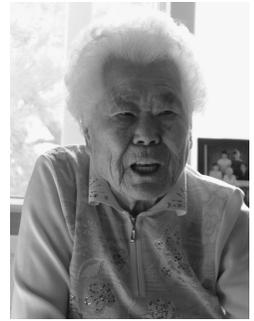


写真1 李玉善さん近影
(2016年3月22日撮影)

て、こうこうこうしろと言うので、お使いに出た。その日がいつだったか今でも覚えてる。7月だった。連れて行かれた中国はもう寒かった。ここは暑かったけど。お使いに出て、大きな道に出た。それである建物の前に出た。出たら、男が二人、道を塞いでいた。それが軍人なのか、巡査なのか、分からない。「お前どこに行く、名前は何だ」こういうことも聞かないで、無条件に連れて行く。一人がこっちの腕を捕まえて、もう一人がこっちの腕をつかんで、とにかく有無を言わず連れて行く。だから驚かないわけがない。

吉見 どういう男の人でしたか。

李 今はもう顔を見ても分からない。

梁 その人たちは何で道を塞いだんですか。

李 ただそのまま。私はこんなに小さいのに、大きな男が二人来て、連れて行くのに、私がどうやって逃げるの。お前、家はどこだ、そんなことも聞かない、有無を言わずこっちの腕とこっちの腕を捕まえて。その時一緒に行った人が、一人はここ、韓国に来て暮らしてる。一人は韓国人、朝鮮人一人、日本人一人。二人で私を連れて行った。

梁 その男性二人というのは、一人が日本人で、一人が朝鮮人だったんですか。

李 うん。

梁 どうして分かったんですか。

李 行く途中で私が行かないと、どうして道を歩いている人間を連れて行くんだと、家で待ってるんだと抵抗したら、韓国語で怒鳴ったから韓国人だって分かった。

梁 もう一人が日本人だというのはどうして分かったんですか。

李 その人は韓国語ができないから日本人でしょ。

吉見 15歳というのは数えですか。

李 そう。

吉見 蔚山に行く前に釜山のうどん屋さんの養女になったと聞きましたが……。

李 私がそれをさっき言おうかと思ったけど全部抜いたの。それは全部要らない。大事なところだけ話します。私が日本人に連れて行かれて、帰って来て今でも足をひきずって歩いています。ずっと病院通いで、もう死んでいたら今日もこんなふうに会うこともできませんでした。昨日も一昨日も死にそうだったけど、病院に行って何とか生きてるんですよ。釜山で生まれて蔚山に行くまでに歴史がちょっとある。でも、そんなことは今日は話さないってことですよ。

私は日本に何度も行ったから、もう日本人は私のこともよく分かってる。だから、連れて行かれた時のことから話すんですよ。でも、最初から話す必要があるなら、最初から話しましょう。

私が幼稚園に行きたいと言ったら、お母さんがお前は行けないって、どうして行けないのかって聞いたら、お前はもう背がこんなに大きいから行けないって、それで行けなくて、学校に行きたいと言ったら、お母さんが学校にも行けないって。当時私は7歳だったけど、7歳の時に習ったことを今も覚えてる。日本の本もちょっと読んでみて、弟たちが学校に行ってるから「ハヌル チョン」〔空の天。千字文、漢字の読み書きのこと。〕も知っていました。でも、書くことはできない。ただ、弟たちがやってるのを聞いただけ。それで私も学校に行きたいと。うちの村では私一人だけ学校に行ってなくて、友達がみんな学校に行くと私だけ行けないから友達もいない。

だから、こんな話を全部しようと思ったら、本当に時間がかかるのよ。ところがある日、あるおばさんが来て、この家の娘を自分にくれと、うちには子どもがいないから、養女にくれたら学校に送って勉強もさせて立派な人に育てるって、結局

嘘ついたんだよ、その人が、私が学校に行きたいと言ってご飯も食べないで学校に行きたいと泣いてばかりいたから、うちのお母さんも嫌になってたわけよ。だから、学校に送ってくれるって言うから、お母さんがそこに行くかって聞いたのよ。私も学校に行きたくてずっと泣いてたから、学校に行かせてくれるって聞いてそりゃあ嬉しいよ。それで行くって言ったのよ。

行ってみたら養女じゃない。行ったその日から食母、ご飯つくる食母だよ。そこで食母をしたんだけど、仕事ができないっていじめられた。いじめられても、どうしようもない、何もできないんだから。それでその家で私に、他の家に行けって言うのよ。他の家に行けって言われてもどうすればいいの、何も知らないのに。逃げたくても逃げられない。逃げようとしても、また捕まって、逃げることもできない。それで、その家で私を使って金を稼ごうとした。その家が何屋かと言うと、食堂、うどんを出して、酒も飲ませる、そういう店だった。そんな家で養女にするって嘘を言って、うちのお母さんも騙されたんですよ。それで、そこに行ったんだよ。

梁 幼稚園に行きたいと言ったということでしたが、当時、幼稚園があったんですか。

李 ありました。

梁 学校に行く前に通う幼稚園？

李 そう。幼稚園。〔養女に行ったところは〕釜山鎮。

梁 生まれたのが釜山市内で、養女に行ったのが釜山鎮で、家政婦で行ったのが蔚山？

李 蔚山に行ったのは、その家〔釜山鎮のうどん屋〕が私を売り飛ばしたのよ。その家で私を連れて行った、食堂の中に私を入れて、お酒も売って、お客さんの接待もさせて金を儲けようとしてそうしたのよ。でも、私が言うことを聞かないか

ら蔚山の飲み屋に私を売ったのよ。うちでは誰も知らない。私が売られたのか何なのか、全然知らない。ところに行く人も、お金で売られて行くとは知らないで行くんですよ。行った後で分かったんですよ。

慰安所でのこと

吉見 酒の席に出すというのは性の売買のようなことも要求されたのでしょうか。

李〔日本語で〕私もはじめ慰安所に行った時は日本語一つも分からなかった。学校行かなかったからね。それで慰安所行って、毎日怒るんです。どうして朝鮮語、話をする、日本語、話をしないかと。分からないからしない。それでも毎日怒るんですよ。それ怒るのが怖いから、少し覚えた。それで、日本語よくしゃべったですよ。それで日本人と一緒に話をしたら、私、日本人か朝鮮人か分からない。それで、解放イフ〔以後〕、どこに行ったのか、山、山に、田舎、そこ行って、55年くらいおったんですよ。55年くらいそこにおいて、日本人一回も会ってないから、日本語みんな忘れた。ここ来て日本から学生がたくさん来る。それで日本語分からないから、これ、日本の本ですよ。これ置いて部屋で私が毎日一人で勉強する。一人で勉強して、「あいうえお、かきくけ」一人で勉強するんです。それから、一人で毎日部屋で一人で勉強する。一生懸命やっても早く覚えられない。こんなふうにして、少し、このくらい日本語覚えた。

吉見 すごいですね。

李〔引き続き日本語で〕それで、昔、慰安所の時、その時、日本語みんな覚えたからね、カタカナもみんな覚えたんですよ。それで、手紙も書けた。でも、みんな忘れた。

梁 慰安所で、カタカナ、ひらがなまで、慰安所

で習ったんですか。

李 うん。〔朝鮮語で〕主人がお使いをさせるから。お使いをしながら覚えた。でも、今では一つも分からない。勉強したのも忘れた。〔日本語で〕日本人と一緒にあって、話をして分からなかったら聞くと早く覚えるけど、一人で覚えたら、早く覚えな。

梁 ひらがな、カタカナはここ〔ナムムの家〕に来て覚えたんですか。

李 〔以下、朝鮮語で〕違う。慰安所で。

梁 主人がお使いに行かせる時にひらがな、カタカナで書いて持たせた、それを読みながら？

李 うん、そういうふうで覚えた。

梁 そのお使いというのは、どういうものですか。

李 何か買って来たり、お使いに行かせる。

梁 何か買いに行くのに、紙にひらがな、カタカナで書いて持たせるんですか。

李 うん、カタカナ。私たちは中国語が分からないじゃない。商店の主人が中国人なんだけど、日本語がとてもうまい。それで、私たちは日本語を使うじゃない、中国語は分からないから。主人が書いてくれたメモをその人に渡す、そうするとその人が品物をくれる、そこで私は中国語でこれは何て言うのかって聞くの。例えば「本だ」って中国語を教えてくれる。私は中国語もそういうふうで習った。中国語、日本語、本当によく覚えた。ところが今では全部忘れて一つも覚えてない。だから日本人が来ると今ももどかしいよ。こうやって本を買って勉強しても、できない。日本には知り合いがたくさんいるのよ。長浜和子って、学校の先生してて今は辞めた人がいるんだけど、その人がここに来ると、1ヵ月、2ヵ月ボランティアをするんですよ。その人と私と仲が良くて、その人が来ると言葉を習う。東京の信川もよく来

る。信川、坪川、知り合いが多い。

吉見 その買い物というのは主に食料品ですか。

李 野菜とかそういうものです。私たちにそんな大きな買い物はさせない。

梁 一人で行ったんですか。

李 一人だよ。主人が何かさせると私はすぐに覚える。覚えが早かったから、主人が私を気に入って、私に何でもさせる。私が出た慰安所では二人の女が死んだ。病気になって、病気になったら病院に連れて行って治療してくれなきゃいけないのに、そういうことがないのよ。死にそうになってから病院に連れて行く。だから病院に行ったら死んでしまう。これが悪いんだよ。

吉見 二人死んだ慰安婦は韓国人ですか。

李 日本人だよ。みんな日本人。朝鮮人はご飯を作ってくれたおばさんだけだよ。

連行について

吉見 二人の男にハルモニは引っ張って連れて行かれましたよね。それはどこに連れて行かれたんですか。

李 当時は、朝鮮から中国に汽車が自由に行く時よ。ところが、その人たちは車を持って来てた。どういう車かと言うと、軍人たちが乗る自動車、荷台に幌がついた車。そういう車で、ちょっと行ったら、その車があった。車に乗ってちょっと行ったら汽車の駅。夜、汽車に乗って中国に行った。

私一人じゃない。その車に乗ったら、私みたいな女が五人いた。その女たちも道を歩いていたら連れて来られたって。だから私まで合わせて六人になったわけ。

吉見 駅は蔚山ですか。

李 いや、中国。

梁 え、中国まで車で行ったんですか。

李 いや、汽車で行ったんだよ。
梁 最初にその人たちが持って来た自動車に乗ったじゃないですか。
李 自動車じゃなくて、荷台に幌がついた、軍人たちが乗りまわす車あるじゃない。そういう車がそこに来てた。
梁 その車に乗って行って汽車に乗り換えた駅が蔚山ですか。
李 そうだよ。蔚山だよ。
梁 軍人の乗る車というのはトラックですか。
李 うん、トラック。
吉見 二人の男はどこまで一緒に行きましたか。
李 中国まで一緒に行ったよ。中国まで行って車で降りた後はどうなったか分からない。
梁 見えなくなっただけですか。
李 うん、分からない。
梁 中国の駅はどこでしたか。
李 そういうことは分からない。延吉に着いて行ったところが……、延吉市内は田舎よ田舎。木が多くて市内が小さい。慰安所がどういう慰安所かという、普通の家が建ってる中にある、平屋建ての藁葺き屋根の家。
吉見 そこに五人の女性たちと一緒に入れられたんですか。
李 いや、四人はどこに行ったか分からない。残った私ともう一人がまた汽車に乗ったんだけど、着いたところが延吉市内だったんです。最初に中国で着いたところがどこかと言うと、図們というところ。豆満江をちょっと過ぎたところに図們というところがある。
梁 その図們に最初に到着したんですか。
李 うん、そこで六人が別れたのよ。
梁 あ、図們で。
李 うん。でも、その四人がどこに行ったかは分からない。私たち二人が……。

梁 では、そこ〔図們〕で汽車を乗り換えたんですか。
李 うん。
梁 蔚山から図們までは1回も……？
李 乗り換えてない。
梁 図們で初めて汽車を降りて、そこで四人はどこかにいなくなった？
李 そうではなくて、図們に到着して、そこから先は汽車が行けない。そこで寝ないといけない。図們で、寝て、朝、出て来いというから出てみたら、四人はどこに行ったのか分からなくて、一人がいて、私と〔二人〕また汽車に乗れと言うから行ったら、延吉だった。

慰安所の様相

吉見 一緒に行った少女の名前は覚えていますか。
李 そこに一緒にいた人の名前は全部忘れた。どうして忘れたかと言うと、慰安所というところは朝鮮の名前は捨てて日本の名前を使わなければならない。私も「トミコ」と呼ばれました。そこで友達を探す時には日本の名前を呼んで探すことはできるけど、朝鮮の名前では探せない。分からない。
梁 一緒に行った女も同じ慰安所に入ったんですか。
李 そうだよ。
梁 では、慰安所でその女性は何という日本の名前で呼ばれていたんですか。
李 分からない。一緒に行った人も分からない。全部忘れちゃった。
吉見 慰安所に着いた時に、その慰安所には他にも女性たちがいましたか。
李 うん。
吉見 その慰安所の経営者はどんな人でしたか。

李 日本人。夫婦もの。子どもはいない。ああいうところに行ったら主人の名前を覚えておくべきなんですけど、主人の名前も分からない。

梁 当時から知らなかったんですか。

李 当時は一緒にいるから名前も呼んだかもしれないけど、分からない。慰安所に行くと、私たちがこうして座っていると、木札に「トミ」って名前が書いてあって、それを貼りだして、その下に女たちが座ってるのよ。そしたら軍人たちが来て見て、この女をくれ、あの女をくれ、という。

梁 名前は「トミ」ですか、「トミコ」ですか。

李 トミ。呼ぶ時にはトミコ、トミコとも言うし。

私たちがああいうところに行って、服もちゃんと着せて、ご飯もちゃんと食べさせてくれていたら、こんなことは言わない。ずっといてもお金もくれないし、客も小遣いの一つもくれないし、私たちはお金がないから服を買ったり、靴下を買ったりすることもできない。だから寒いし、お腹が空くし。軍人はたくさん相手しろって言うし、14歳の女の子に、一日に軍人を40人、50人相手にしろって言うのよ。

梁 一日にですか。

李 そう、一日に。だから幼い女の子は堪えられなくて、自殺して死んじゃう。慰安所というのを作っておいて、韓国の女をどれほどたくさん強制的に連れて行ったことか。それから私たちがいた慰安所には日本人の女が一人いたの。その日本人と私たちを区別してたのよ。日本人の女は軍人の相手をしなくても文句も言われないし、主人と一緒に美味しいご飯も食べて、お客を取らないで隣の部屋で寝ても文句も言わない。こんなふうに差別した。だから私たちが悔しくないわけがない。私たちは豚のような扱いをして。

梁 日本人の女性は一人だけですか。

李 一人。

梁 そこには全部で女が何人いたんですか。

李 多くありません。七人いた。

梁 ハルモニを入れて？

李 うん。七人。

梁 その中の一人が日本人だったんですか。

李 うん。

梁 それじゃあ、朝鮮人六人、日本人一人。

李 だから日本の女と私たちが親しくできないのよ。いつも別れてた。だから面白くない。最後の頃、解放される頃には九人くらいいたと思うけど、誰と一緒にいたかよく覚えてない。私たち韓国人は言うことを聞かないと言って刀で刺し殺し、銃で撃ち殺し、こんなことしちゃダメじゃない。日本では、自分たちは韓国の娘たちを強制的に連れて行ってないと言ってる、そうでしょ？ それから連れて行った後は、自分たちが韓国の娘たちにいいものを着せて、ちゃんと食べさせてあげた。もしそうだったら、どうして私たちが日本政府に謝罪しろと言うのか。先生〔梁のこと〕も女だから、子ども一人産んで育てるのがどんなにたいへんか分かるでしょ？ そんなふうには10年、20年育てて、日本人に殺せと言って渡す人がどこにいますか。だから、日本人のしたこと全部言おうと思ったら何日あっても足りないんですよ。

梁 最初は七人で、最後には九人くらいいたとおっしゃいましたが、その途中で自殺した女もいたし、銃で撃ち殺された人もいたとしたら……。

李 私がいたところではそういうことはなかった。他の場所であったという話。考えてみてください。

11歳、12歳で何が分かる？ 乳飲み子みたいなもんじゃない。そんな子たちに何をしたのか。だから、私たちは日本が悪いって言うのよ。

梁 では、ハルモニがいたところでは自殺した女

はいなかったんですか。

李 いない。

梁 銃で撃ち殺し、刀で刺し殺し、というのは？

李 よその話。私のところは、そんな酷いことはなかった。

梁 そういう話をたくさん聞いたんですか。

李 そうだよ。私たちは生きてるから話すことができる。先に死んだ人は言いたくても言えないじゃない。だから、その分まで私たちが今言わなきゃいけない。私は日本人に連れて行かれて身体がめっちゃめっちゃになって帰って来た。だから言うのよ。そうでなかったら言わない。私が今している話は、慰安所の中の話はできない。慰安所の中の話は本当に言えない。あんまり汚らしいから。日本の軍人は本当に悪い。軍人の言う通りにしなかったら、殴ったり、斬ったり、撃ったりするから。軍人にいい軍人なんていない。軍人に慰安婦の女を殺せって言ったのか？ そうじゃないでしょ？ 日本人だからと言ってみんな悪いわけではなくて、人が悪いんじゃない、政府が悪いんだよ。そうじゃない？

軍人による暴力

李 どうして私がこういうことを言うかという、私も刀で斬られたことがあるから。ここ〔右腕〕も刀で斬られた跡だし、これも刀で斬られた跡だし。これ〔右足の指。写真2参照。〕を切り落とそうとしたのよ。これを斬り落とせば私が逃げられないから、斬り落とそうとしたけど切り落とせなくて付いてて、跡だけ残ってる。こんなふうに私が連れて行かれて殴られて、目も両方ともよく見えないし、耳も両方ともよく聞こえないし、歯も全部抜けて入れ歯だし、日本に謝罪しろって言わないではいられないでしょ。慰安婦でいた時に子宮癌にかかってたんだけど知らなかつ



写真2 斬りつけられた右足指
(2016年3月22日撮影)

た。解放されて出て来て、血がばーっと出て大変だったの。病院に行ったら死ぬと言われた。なぜか。子宮癌なのにひどくして、今手術しなければ死ぬと。それでここを切って、こっちも切って、切除しちゃったの。だから子どもも産めない、日本に対して良いとは言えない。足の先から全部手術して、入れ歯も合わないから今でもご飯もろくに食べられないし。それなのに日本で知らんぷりするから。

第一慰安所について

吉見 慰安所には名前がついていましたか。

李 慰安所には名前がなく、延吉市内に慰安婦が二つあった。第一慰安婦、第五慰安婦。こんなふうにあつた。

梁 第一慰安婦、第五慰安婦？ 慰安所ではなく慰安婦ですか。

李 今は慰安所、慰安所って言うけど、それが慰安婦でしょ。日本が中国に行つて慰安所を作つておいて、韓国の娘たちを連れて行つたでしょ。昨年、北海道に行つて来たんだけど、日本政府が中国に慰安所をつくつたが、それは慰安所じゃなくて、人を殺す屠殺場だって私は言った。死刑場って言つたら過激な気がして屠殺場って言ったのよ。そしたら次の日、ハルモニは慰安所は屠殺場だつたって言ったけどどういう意味かって聞くのよ。どうして意味が分からないの。屠殺場は牛や

豚を殺す場所でしょ。だから考えてみなさいって。日本が中国に慰安所をつくってみんな殺したんだから人を殺す死刑場でしょ。死刑場って言うと過激な気がして屠殺場って言ったんだって。考えてみろって。みんな殺したんだから死刑場でしょうって。〔そうしたら〕ハルモニのおっしゃる通りですって。それは実際死刑場で慰安所じゃないよ。

梁 延吉にあったそれは第一慰安婦じゃなくて、第一慰安所ですか。

李 うん。二つあった。

梁 ハルモニがいたのはどっちですか。

李 第一。

梁 第二ではなく、第五なんですか。

李 うん。

梁 なぜ突然、第一の次に第二や第三がなく、第五なんですか。

李 他のところにそういうのがあるんじゃない？でも、そこにあったのは、その二つ。

梁 一と五？

李 うん。

吉見 そこには軍人たちは朝何時くらいから来るんですか。

李 朝は来ません。あの人たちは、日曜日にたくさん来ます。

梁 平日には来ないんですか。

李 平日にも来ますよ。来るけど、たくさんは来ない。一人、二人、少しずつ来るんだよ。週末には「ナラベル」〔日本語で発音〕。立つ。

梁 日曜日にも朝は来ないんですか。

李 朝早くは来ない。時間がある。その時間から大勢来る。

梁 日曜日は大体何時頃からですか。

李 その時間はよく覚えてない。もう随分前のことだから。とにかく朝ご飯食べたら来るんだか

ら。

拒否することはできたか

吉見 軍人たちは切符のようなものを持って来るんですか。

李 いやいや、お金を持って来る。1時間にくらって時間通りにやるんだから。1時間いくらってあるんだけど、軍人がお金をくれると、私たちはこんな票〔名刺大の紙切れを示す〕に日付を書いて判子を押して、それを渡す。私たちはこの紙を持って、お金は持てない。昼に、これ、軍人一人が1枚ずつ持って来る。夜、これを事務所に持って行くんだけど、これをたくさん持って行くと、その女はいいと〔褒められる〕。1枚、2枚持って行くと、また怒られる。だから、お金は私たちは持たない、この紙だけもらう。

梁 では、お金はハルモニが直接一旦はもらうんですか。

李 〔うなずく〕もらう。それを事務所に持って行く。

梁 お金を事務所に持って行ったら……。

李 お金を渡したら、私たちにはこれ〔票、紙切れ〕をくれる。

梁 お金は先にくれるんですか。終わった後でくれるんですか。

李 いやいや、入って来たらすぐにくれる。

梁 では、そのお金をまず事務所に持って行ってから軍人の相手をするんですか。

李 そう。

吉見 実際にそのお金はいつかはもらえるんですか。

李 私たちは関係ない。そのお金は主人がもらったんだから。だから私たちが言うのよ。日本で私たちが金を稼ぎに行ったって言うけど、私たちがお金をもらったかって。お金をもらったのは日本

人〔業者〕だよ。

吉見 慰安所の主人から「借金がある」といったことを言われたことはありますか。

李 靴下一つ買っても借金になる。こんなだから悔しいのよ。ホルモン、軍人たちが小遣いくれませんでしたかかって聞くんだけれど、軍人が何のお金があってくれるの。一度は日本人の中学生にこんなことを聞かれたよ。ホルモン、慰安婦にならなかったら何になっていたかかって聞いたのよ。自分の父親に聞いてみる、って答えてやった。避妊具を使う。避妊具を何て言うかという、サックって言う。これを使うまいとするから争いになる。

吉見 サックを使わない軍人を拒否することはできましたか。

李 私たちがその人を嫌がって、嫌だとは言うけど、そうはできないじゃない。どうせ殴って、殺して、するのに、どうするの。

梁 じゃあ、どうするんですか。サックを使おうとしない軍人に対しては……。

李 使わせるんだよ。

梁 使うまで争って、争って、使わせるんですか。

李 そう、そうだよ。

梁 拒否はできないってことですか。

李 そうだよ。相手にしなかったら殴られるのに、どうするの。だからこうやって刀で斬られたりしたんじゃない。

吉見 慰安所では休みの日はあったんでしょうか。

李 アイゴ（笑）。慰安所に休みなんかあるわけない。正月もないのに。

吉見 性病検査は定期的にあったんですか。

李 うん、1週間に1回。1週間に必ず1回ずつ。

吉見 休めるのはその時半日くらいってことです

か。

李 検査の日も、大勢が順番にやるから、先に検査した人と、後で検査した人がいるじゃない。だから、それは関係ない。検査する日も軍人が入ってくれば相手をする。

吉見 生理の日も休めませんでしたか。

李 生理がひどい日でも休むことはできない。生理の日は「ハイメン」〔海綿カ〕って言うのを使った。だから女たちは死んじゃう、生きていられない。

梁 ハイメンというのはどういうものですか。

李 ハイメンって言うのは、水がない時には固いけど、水が入ると柔らかくなって、食器洗ったりするのに、家庭生活するのに使うじゃない。

吉見 風邪を引いたり、病気になった時には休めるんですか。

李 アイゴ、それでも休めないよ。具合が悪いと言うこともできないし。私がいたところはそんなにひどい方ではなかったけど、それでもこうだったんだから、ひどいところは話にならないでしょう。今、日本は謝罪もしない、賠償もしないで、韓国をまた奪うつもりで戦争の準備をしてるじゃない。これが悪いんだよ。それからこないだ日本で合意しに来たでしょ。日本政府が合意したくて来たなら、被害者と合意しなきゃいけない。どこに行っても合意してるの。これは間違ってる。それじゃあ、ホルモンたちはどうするか。私たちが死なないで生きてるんだから、食べて生きて行かなくちゃいけないじゃない。それなのに、どうしてホルモンたちに嘘をついて、こないだ聞いたら、ホルモンたちのこともう知らない、捨てたって。じゃあ、私たちはどうすればいいの。

II. 2016年3月22日の聞き取り(於：ナムムの家)

蔚山から図們へ

吉見 蔚山から図們に汽車に乗せられて行った時、どんな汽車でしたか。

李 中国の汽車。あの時は中国の汽車がここをよく走っていた時だから。今は走れないけど。あの時は中国と韓国、汽車に乗って行き来する時だよ。

吉見 それは普通の客車ですか、貨物車ですか。

李 いや、貨物車じゃない。私たちは貨物車には乗ってない。

梁 それじゃあ、人が座る席があるんですか。

李 うん。

梁 そういう席に座って行ったんですか。

李 うん。

吉見 図們に着いた後、どうやって延吉に行ったんですか。

李 夜、夜着いた。汽車が夜着いて、図們までしか行けない。そこから先には行けない。

梁 図們に着いたのが夜なんですか。では、蔚山を出たのは？

李 蔚山を出たのは午後。午後に蔚山を出て、日が沈む頃、5時か6時くらいに。

梁 蔚山から図們までそんなに早く着くんですか。

李 そうだよ。中国は近いじゃない。川を越えるんだけど、豆満江を越えれば中国だし、中国から川を越えれば韓国だから、遠くないよ。

梁 蔚山から図們はそんなに近くないと思いますけど。

李 だから夜通し行ったんだよ。

梁 じゃあ、午後に蔚山を出て、汽車の中で夜を過ごしたんですか。

李 いや、そのまま行った。夜そのまま行ったん

だよ。

梁 汽車の中では寝なかったんですか。

李 寝てない。

梁 到着した時には暗かったですか。

李 真っ暗だった。

梁 図們からはどういうふうに行ったんですか。

李 駅前で寝た。

梁 どういう建物ですか。

李 その駅前に何があるかという、「クリソ」がある。「クリソ」というのはここでは知らない。監獄のこと。罪を犯した人をクリする^{クリス}じゃない〔拘置所=クチソのことか、クリする=拘置する〕。そんな監獄があるの、そこに。あの時は韓国の国がなかったから、食べて生きて行けない。それで秘密の商売をする人もいるし、商売人がいっぱいいたよ。その秘密の商売人たちがクリされるとそこに入って休養するのよ。そんなところに私たちは泊まったの。

未だに理解できないのは、六人で連れて行かれたのに、他の五人は一つの部屋で寝かせて、私一人だけ冷たいセメントの床の部屋、電気も何もなく真っ暗なところに、私一人だけ入れられた。それで、私が何をしたらと言ってこんなところに入れるのかと、どう考えても分からない。その時私が足を痛めて今でも足が悪いんだよ。それで二つとも手術したじゃない。ここに来てから手術したの。

梁 どうしてそれが未だに足が痛い原因だと思うんですか。

李 その時から痛かったから。監獄の寒いところにいて関節がおかしくなったんだよ。

吉見 翌朝はどういうふうに？

梁 そこには一晩だけいたんですか。

李 一晩だけ。

梁 では、次の日の朝はどうやって延吉まで行っ

たんですか。

李 私たちに、そこで寝ろと言って駅前に私たちが寝かせて、私たちを連れて行った人は旅館で寝て、食堂でご飯食べて、私たちには何もくれないで、水一滴もくれないで私たちを連れて歩いたんだよ。あんまりにも泣いたからひどい姿だよ。私は連れて行かれてすぐに慰安所に入ったんじゃない。外で労働してから入った。

延吉の飛行場で：滑走路整備の仕事

吉見 外で働いたというのはどういう仕事ですか。

李 飛行場。ヒコウキ〔日本語で発音〕。日本が中国に攻め入るから、飛行場があるんだけど、小さいから、その飛行場を大きく拡大するのに、そこでどういう仕事をするのか。飛行機が行く道、それを磨く仕事をした。飛行機が走る道……。

梁 それを図們でしたんですか。

李 うん。今でもその飛行場はある。東飛行場。なぜ東飛行場といったかという、東にあるから東飛行場と言った。今行ったら、その跡地に家を建ててみんな住んでる。今でもその飛行場の跡地がある。

梁 滑走路を磨くんですか。

李 草をむしる。土をならす。飛行機が行けるように。道をつくる。

梁 東飛行場と言ったのは当時ですか。

李 その時から東飛行場って。東にあるから東飛行場って。

梁 日本語でそう聞いたんですか。

李 その時は日本語知らないよ。当時、そこに行ったら、韓国人の男と女が強制的に、数百人連れて来られて仕事をさせられていたよ。そこで働くのはとても怖い。なぜ怖い。そこで仕事するじゃない。仕事するんだけど、鉄条網があって、

仕事してて逃げるんじゃないかと思って鉄条網をはりめぐらしてるんだけど、それに電気が通っている。電気鉄条網の中で私たちは仕事をしたのよ、本当に怖かった。

なぜ電気を入れていたかという、私たちが仕事しながら逃げるでしょ、逃げるためにはその鉄条網を越えなきゃいけない、逃げるなら電気にふれて死ねることよ。だから日本人が私たちに何をしたか、どれほど怖かったか。そこでも軍人たちが私たちがちゃんと仕事してるかどうか監視してた。そこで働いたら食べ物をくれるんだけど、ご飯じゃなくて、蒸しパン一つくれて、それ食べて働けて言う。でも、いくら子どもでも、それ一つでどうやって一日仕事をするの。

梁 1日に一つですか。1食に一つじゃなくて？

李 1日に一つだよ。それで水もくれないし、何かあると殴って血がぱーっと出て血だらけになった。服も着の身着のままで行ったから着る服もないじゃない。洗って着ようと思っても、洗って着ることもできない。それで血だらけになった服を洗う石けんもない。それで逃げようと思ったけど、逃げられない。どうやって逃げるの。ほんのちょっとの逃げる穴もない。それで逃げることもできずに、ある日、私たちは仕事もしないで家に帰してくれて抗議したのよ。そしたら軍人たちが「どうして働かないで部屋で騒いでるんだ」って。私たちは「仕事できない」と。どうして仕事ができないのか。「お腹が空くし、寒いし、それで仕事できない、家に帰してくれ。私たちが家に帰してくればこんなこともないじゃないか」って、そう言った。

そうして抵抗したら、軍人が「お前出て来い、お前、家に送ってやるから出て来い」と言って、家に帰してくれるのかと思って嬉しくてびよんびよん飛び上がって出て来た。その時、私たちが

慰安婦というところに連れて行ったんだよ。慰安婦が何なのか、何をするのか、私たちは知らないじゃない。私たちが連れて行かれた慰安所は延吉という市内なんだけど、道がずっと続いて行ったところにある藁葺き屋根の家。

梁 飛行場にはどれくらいいたんですか。

李 長くはいなかった。

梁 おおよそどれくらいですか。

李 一ヵ月くらい。長くはいなかった。

延吉の最初の慰安所

梁 延吉の家の話から。

李 家がびっしりと建っているところの真ん中に平屋建ての藁葺き屋根の家。長い家なんだけど、入ったら明るくなくて、暗くて、部屋がここにひとつ、こっちにひとつ、女が一人ずつ。でも、私たちはそこが何をやる家か分からないじゃない。

梁 延吉市内に行ったら家がびっしりと建っていましたね。その家には中国人が住んでいるんですか。

李 そうだよ。みんな人が住んでる家だよ。そこは、中国延辺。韓国みたいなもの。

梁 当時ですか。

李 そうだよ。そこは韓国人が多い。だから韓国語を忘れないでいられたんだよ。

吉見 そこは市内ですか。

李 市内。今はどれほど社会が発展したか。韓国もそうじゃない。日本も以前はそうではなかったけど、今は発展して大きくなったじゃない。今は行ってもどこがどこか分からない。私がいた慰安所の家その時にはあったんだけど、今行ったら、ない。全部とりこわして、違う家を建てちゃった。

梁 周辺の家も今はないんですか。

李 ない、ない。

吉見 東飛行場から慰安所までは誰がハルモニを連れて行ったんですか。

李 そりゃあ、軍人だよ。軍人が連れて行ったんだよ。

吉見 汽車に乗って？

李 いいや、歩いて。そんなに遠くないから歩いて。車にも乗らないで。

梁 ではハルモニ、最初に凶們に行って、凶們で一晩寝た後、汽車に乗って延吉に行って、延吉の飛行場に行ったんですか。

李 そうだよ。

吉見 慰安所では一つの部屋に入れられたんですか。

李 部屋一つに一人。この部屋よりも小さい。これ〔この部屋。玉善さんの居室〕一つなら、部屋が二つ作れる。こんなふうに小さく作る部屋一つに一人ずつ。

吉見 ベッドですか、畳ですか。

李 私たちがいたところはベッドはなかった。普通の、韓国人は部屋に火を入れるじゃない、そういう床の部屋。

梁 オンドルですか。

李 うん、オンドル部屋。

吉見 部屋の中は寒くはなかった？

李 寒くはない。火を焚くから。寒くはない。

吉見 日常はその部屋から出られないのですか。

李 外に出かける用事がないし、お金がないから外に出る必要もないのよ。だから椅子に座って、いつ軍人が来るのか、それだけ見てるんだよ。

梁 椅子があるんですか。

李 こんな椅子がある。このくらいの長い〔1メートル位〕。

梁 木でできた？

李 そうだよ、木でつくったものだよ。

衣服と借金

吉見 服はどのような服を着ていましたか。

李 韓国で着ていた服をそのまま着てたんだけど、最初から話していけば全部出て来るんだけど、質問して答えるから、あっち行ったりこっち行ったりするじゃない。飛行場から慰安所に行ったんだけど、ご飯を作ってくれるおばあさんが、朝鮮人のおばあさんなんだけど、「お前お腹が空いてないか、ご飯を食べな」、それでご飯を食べたんだけど、ご飯がどういうご飯かと言うと、粟飯、黍飯、こういうのを食べる。ご飯をくれるんだけど、おかずもないし、キムチもまずいキムチをちょっとくれる。それでご飯を食べろって言うから、ご飯を口に入れるんだけど、ご飯が口から出てきちゃう。食べられない。私は韓国にいる頃、苦労はしてたけど粟飯なんて見たこともなかった。そこでは粟飯だから、ご飯に砂が撒かれてるみたいで食べられなかった。それで吐き出しちゃって、食べられなかった。

そんなんでご飯も食べられないでいたら、私たちを連れて行った人が風呂敷包みを用意して、一人に一つずつ風呂敷包みを置くわけよ。「これは何？」と聞いたら、服だと、これに着替えろと。で、その中に何かがあるかと言うと、服が入ってる。どんな服か、日本の着物。今、あそこにもある。そんなの私たちは夢にも見たことないし、着たこともないし、分からない。着方も分からないのに、そういうのを一つくれた。靴下は日本人が履く足袋あるじゃない、足袋一つ。靴は下駄。そんなのが風呂敷包みの中にあるわけ。それで何て言ったかと言うと、「これは、お前たちがお金がないから買えない、これは我々のお金で買った。お前たちがお金をたくさん儲けて、この借金を返せば故郷に帰れる」、こんなことを言った。

それで私が何て言ったかと言うと、「いったい

私たちがどうやって金を稼ぐんだ。どうやって借金を返すんだ。返せない。私たちを強制的に連れて来て、強制的に働かせて、でも私たちは一銭もお金をもらったこともない。ここのお金がどんなものか、見たこともない。それなのに、どうやって私たちがお金を稼いでこの借金を返すのか」。そのお金をたくさん稼がなければならないというのがどういう意味かと言うと、軍人の相手をたくさんしろってことなのよ。

梁 その風呂敷包みをくれた人は誰ですか。

李 全部日本人。私たちを管理する人だよ。

梁 連れて行った人？

李 私たちを連れて行った人は軍人だから、そこに〔私を〕置いて行った。そこには管理する人がいるから。

吉見 その借金の額はどれくらいだと言われましたか。

李 その時の借金がいくらかは分かりません。10銭か20銭か分からないけど、とにかくそれをくれて、お前たちがお金を稼いで返さなければならぬってこう言うんだけど、私たちはそれがいくらのものなのか、いくらで買ったものなのか分からないじゃない。それなのに、どうやって返すの。ところが稼いでお金を返せって言うのは、軍人の相手をたくさんしろってことなのよ。軍人の相手をたくさんしたら私たちがお金を稼げるのかね。

あいつらが稼ぐのであって、私たちは稼げない。

梁 その風呂敷包みをくれた管理人は男ですか。

李 男だよ。

梁 一人ですか。

李 一人。

梁 日本人？

李 うん。私たちの雑用とかをやる人。でも、私たちは何をやってるんだか分からない。靴下一つ買っても、私たちの借金が増える。私はそこにい

たのが3年そこそこなんだけど、借金がいくらかという、三千七百くらいだった。私の身体の値段がそれくらいに高くなってた。そんな時に解放を迎えて、死にそうなところを生きて出られたんだよ。

逃げ出すことはできたか

吉見 管理人の妻はいなかったんですか。

李 いたよ。私たちを管理していたのは夫婦ものだった。夫婦なんだけど、男は歳を取ってた。でも、女は若かった。そんなところで私たちが暮らしてたんだよ。

梁 女も日本人ですか。

李 みんな日本人だよ、韓国人はいない。軍人は韓国人が多いじゃない。でも、来ても韓国人か日本人か分からない。軍人は日本語がみんな分かるから。

吉見 慰安所の中で韓国語をしゃべってはいけなかったんですか。

李 ダメだよ。みんな日本人だから、韓国語でしゃべったって分からないじゃない。私たちは方法がない。日本語が分からないと怒られるし、叩かれるし、刀で斬られたり、怖いんだよ。だから私は、あの時、その主人が私のことを気に入ってたのよ、なぜかと言うと、何でも私が早く覚えるから。だから「トミは聡明だ」と言って私を気に入ってた。気に入ったからと言って、お金をくれたり、服を買ってくれたりするわけじゃない。ただ、叩いたり、怒鳴ったりしない。だから、私が日本舞踊を習っても早く覚えた。部隊に行って軍人の慰問をするということで、私たちはその時、歌ったり踊ったりした。そんなことも私が他の人より早く覚えたから、それで私のことを気に入ってた。

吉見 部隊への慰問はどのくらい行ったんです

か。

李 いやいや、1回も行かなかった。

梁 じゃあ、行くと言って練習だけしたということですか。

李 そうだよ。練習してて途中でやめたんだよ。最後まで全部習わないで、少し習ってすぐにやめた。私が出た時に、新しく女の子がまた一人来たんだけど、14歳。14歳の子が来た。その子は来ても、軍人の相手はしなかった。部隊の中の地位の高い人。その人のところにだけ行く、その女は、そこに行って寝て来て、車が来て連れて行って連れて来る。部隊で。そんな女が一人いた。

梁 朝鮮人ですか。

李 朝鮮人だよ。14歳。

梁 その時、ハルモニはいくつだったんですか。

李 その時は16歳。

梁 じゃあ、そこに行ってから1年くらいしてから。

李 そうだよ。そこ〔部隊〕から車が来て、その女を乗せて行って、また乗せて行って一晩寝たら、また乗せて来た。

吉見 慰安所の周りには塀などがあるんですか。

李 いや、そんなのはない。家がたくさんあるところに建ってるから、そんなのはない。塀も何もない。私たちが最初行った時は市内の小さな家だったんだけど、しばらくしてから、その家が小さいから市内の横に家を建てた、大きな家。それでそこに引っ越して、ちょっと経ってから解放になった。その家は外に塀があった。

梁 最初の家では入口で軍人が見張りをしていましたか。

李 アイゴ、列を作って並んだんだよ。

梁 ハルモニたちが逃げられないように見張りをしている軍人はいなかったんですか。

李 そういっているのはない。私たちが逃げるのは簡単

じゃないから、どうやって逃げるの。お金ないでしょ、道分らないでしょ、どこに行ったら韓国に行けるのか、アメリカに行けるのか、分からない。だから、そんなことは気にしなかった。ただ、どうやったら私たちに軍人をたくさん取らせるか、お金をたくさん儲けるのをあの人たちは喜ぶから、それだけだよ。私たちに1年に1回でもお小遣いでもくれて、これで服でも買って着ると、この程度のことでもしてくれてたらありがたかったけど、そんなことすらない。お正月だけは白米を食べさせてくれたけど。

神社参拝

李 それからこんなことがあったよ。軍人たちが寺テラに行ってお祈りをする。お祈りをする時に軍人だけ行って、慰安婦ハルモニもみんな連れて行くんだよ〔「お祈りをする時に軍人だけでなく、慰安婦まで連れて行く」の意〕。そこに行っていつも「天皇陛下万歳！」〔日本語で発音〕、そんなことやって、「皇国臣民なり」〔日本語で発音〕、そういうのを、私たちを連れて歩いてやったよ。

梁 それは神社ですか。

李 寺。こんなの〔大きい〕あるじゃない。だから、靖国神社あるじゃない、ああいうのを私たちは「寺」と言ってるの。

梁 それじゃあハルモニはそれも早く覚えたんでしょうね。

李 それももう忘れたよ。いつも「天皇陛下万歳！」〔日本語で発音〕ってやったよ。

梁 それから「皇国…」？

李 「皇国臣民なり、忠誠もって軍国に尽くす」〔日本語で発音〕。もう忘れちゃった。ちょっとしか覚えてない。そんなことを言った。でも、今は忘れちゃって最後まで言えない。それから、私たちがこういうふうニに座っていると、軍人が来る

じゃない。その頃には日本語がちょっとできるようになってた頃。ヘイタイが来たら何て言うか分かる？「女の心は便所のスリッパ！」〔日本語で発音〕。こう言うんだよ。その時私は「女の心は便所のスリッパとちがう、男が便所のスリッパです」〔日本語で発音〕って言ってやった。軍人たちもそんなことを言った。だから、私たちが慰安所の何をいいと思えるか。

梁 それを聞いて軍人が腹を立てることはありませんでしたか。

李 腹が立つからそういうふうニに言い返したんじゃない。「男の心は便所のスリッパ」〔日本語で発音〕って言ってやった。

梁 いや、そうではなくて、軍人が腹を立てませんでしたか。

李 そんなことはない。

吉見 神社にお参りするのはお正月とかそういう時ですか。

李 よく行ったよ。でも、思い出せない。1ヵ月に1回だか、1年に1回だか、よく思い出せない。

吉見 それは軍人とハルモニ一人だけ行くんですか、慰安婦全員一緒に行くんですか。

李 みんな。軍人たちが来て慰安婦をみんな連れて行く。私たちは分からないじゃない。私たちが勝手に行くことはできないでしょ。軍人たちが来て連れて行くのよ。一緒に行くの。

第一慰安所と第五慰安所

梁 第一慰安所と第五慰安所があるということでしたが、最初から家がたくさん建っているところに二つとも建っていたんですか。最初に行った家が第一ですよ。そのすぐ横に第五があるんですか。

李 ちがう。離れてた。

梁 ジャあ、どうやって分かったんですか。

李 どうして分からないの。私たちが行き来して
たもの。遊びに行ったから。その慰安所からうち
に遊びに来たし、私たちもあっちに遊びに行った
から。そういうのは気にしない。逃げなければい
いのよ。第五慰安所というところには姉妹がいた。

梁 管理者が姉妹ですか。

李 いや、慰安婦が。姉妹で連れて来られた慰安
婦がいたの。軍人がたくさん来ると忙しいで
しょ。そうすると場所がない。一つの部屋に二人
一緒にいる時もあるし、三人……。これはいった
い何なの。これが本当に……。管理人たちも、だ
から本当に悪いのよ。軍人たちがそれでもいい
て言うからそうなるのよ。本当に辛いよ。

梁 なぜそうなるんですか。部屋よりも慰安婦が
もっと多かったということですか。部屋も10個で
慰安婦も10人ならそうならないじゃないですか。

李 そうだよ。だから1部屋に二人、三人になる
んだよ。

梁 なぜですか。慰安婦の方が部屋よりも多かっ
たんですか。

李 その部屋に他の客がいるんだよ。ちょっと
待っててって言ってた。そんなことをしたんだ
よ。慰安婦って言うのはただ軍人の相手をして楽
にしていた、そういうものじゃない。だから私た
ちが、その中の話をしないんだよ。これは本当に
悪いことだよ。

梁 後で大きな慰安所に引っ越しましたが、その
時には第一慰安所だけ引っ越したんですか。

李 そうだよ。

梁 第五は？

李 そっちは家があるじゃない。私たちの元々い
た家が小さいから、新しく家を建てて引っ越した
んだよ。

梁 では、家が小さかった時の第一慰安所には部
屋はいくつありましたか。

李 一人、二人、四人、五人、六つか七つあっ
た。今思えば。

梁 最初にいらっしゃった第一慰安所の部屋を絵
で描いていただけますか。

李 これが扉。ここから入って、ここに部屋がふ
たつあって、ここにまたふたつ。

梁 ちょっと待ってください。

李 これが扉。ここから入って。

梁 では、ここは廊下ですか。

李 はい、廊下です。廊下があります。それか
ら、ここに家がまたくっついてる。部屋がまたこ
うあって。

梁 これは門ですか。

李 扉。これも家。こっちにも部屋がふたつあ
る。

梁 では、こうなるんですね。ここに扉があっ
て、廊下があって、廊下の両側に部屋があって、
廊下の先にまた部屋があるんだけど、この部屋が
……。

李 こっちに一つ、こっちに一つ。ここにまた廊
下がある。

梁 台所はどこですか。お風呂とか。

李 この中に風呂が全部ある。廊下の中側。

梁 どこで食事するんですか。

李 食堂がある。主人のいる部屋がこっちに別に
ある。

梁 そこに行く時には一旦外に出るんですか。

李 出ない。全部廊下があるから。こっちに行く
と台所があって、風呂がある。

梁 とにかく女性たちはこっちの部屋を使ってい
るわけですね。

李 そうだよ。女たちはこっち。

吉見 軍人はどこに並ぶんですか。

李 この中に入って来て、ここからまた出ていく。

梁 並ぶのはどこに並ぶんですか。

李 庭が広いんですよ。この家には庭はない。後で建てた家は庭が広い。

梁 ジャあ、最初の家ではどこに並んだんですか。

李 この家は市内の真ん中にあった。でも、新しく建てた家は敷地が広がった。

梁 家の中に入ると、こういうところに扉があったんですか。

李 もちろん。出入り口にも扉があるし、部屋にもあるし、全部ある。

梁 では、軍人がこう入って来ますよね。次の軍人はどこで待ってるんですか。

李 中で待っていることもあるし。この家にいた時には、そんなに軍人が多くなかった。

梁 では、ここでは1部屋で二人を相手にするようなことはなかったんですか。

李 ここではそういうことはなかった。長くないかったし。

梁 ここにはどのくらいいたんですか。

李 分からない。長くないかった。

梁 ここ〔小さい家〕にいる時に性病検査はしましたか。

李 もちろん、中に全部ある。検査する部屋も。

最初の性的暴行

梁 ハルモニ、初めて行った時、最初に検査をしてから軍人の相手をするようになったんですか。

李 最初に行った時には検査してない。ちょっとしてから検査した。原則は、最初に行った時に検査しなくちゃいけない。でも、〔私は〕最初に入った時に検査しなかった。ちょっと経ってからやった。

梁 なぜでしょう？

李 私に分かるわけがないじゃない。私たちは奴らがやれと言うとおりにやるだけなんだから。私たちが検査して、お前はいいとか、悪いとかやるわけじゃないんだから。

梁 性病検査もしないで、どうやって最初に慰安婦というのはこういうものだと分かったんですか。

李 私たちは分からないじゃない。分からないから、軍人をどういうふうに相手するか、主人が教える。今は軍人が脚絆というのをやらないじゃない。昔は脚絆をやった。それを全部ほどく。ほどいて靴も部屋に持って行って、私たちが全部巻いてあげる。

梁 それを主人が教えるんですか。

李 そうだよ。そういうふうにしろってことよ。それから部屋に入って何をするか。何をやる？だから私たちは被害者だってことですよ。部屋に入ったら軍人たちが私たちの服を脱がせて……。だから最初は本当に大変だよ。血もどれだけ流したか……。

梁 最初に脚絆をほどいて、それをまた巻いて、というのを主人が教える時にも、まだ慰安婦というのがどういうものか分かりませんよね？

李 そうだよ。

梁 けれども、軍人が入って来た時に主人に習った通りにして、そして襲われたんですか。

李〔無言で頷く〕軍人をたくさん相手にすると主人が喜ぶじゃない、お金が儲かるから。だから、軍人があまり来ないと、お互いに自分が連れて行くって、やるのよ。自分が連れて行くって。先に靴を脱がせた女が連れて行く。

梁 入口で？

李 うん。軍人がお前の部屋に行こう、こう言うんじゃないくて、女たちが軍人のところに行って、

その軍人の靴を脱がせれば、その女の部屋に行く。

梁 名札があって女たちが座っているんだけど、女の方から先に行って靴を脱がせれば……。

李 うん、そういうふうにした。

梁 女たちは最初は慰安婦が何なのか分からないから、初めからそういうふうにしたわけじゃないですよ？

李 最初は怖いよ。でも、軍人が来てお前行こうと言えば仕方なく行くけれども、そういうことはしない〔自分から軍人を連れて行くようなことはしない〕。でも、自分から軍人を連れて行こうとして靴を奪って行ってやる人もいる。そうすれば、その人が一緒に行くから、靴を脱がせたのに、他の女のところに行くことはできない。そういうふうにした。

梁 そういうのを見てどう思いましたか。

李 最初は怖いし、そんなことするとは思ってもみないし。あそこにおいて段々に分かったけど、最初は死ぬほど痛かったよ。血がすごく出て、女には処女膜というのがあった。今の学生たち、女の子たちは運動をたくさんするじゃない。運動をたくさんするから関係ない。処女膜というのがない。でも、当時は違ってたから、あんまり辛いから女たちは高い山から飛び降りて死んだり、海や川に飛び込んで死んだんだよ。

梁 そういう話を聞いたんですか。

李 うん、それ、どれほど辛いからそうしたのか。だから、慰安所ってどういうものか考えてみて。辛くなかったらどうしてそんなふう自殺するかってことよ。だから私が言うのは、日本が中国で慰安所をつくって、ハルモニたちを強制的に連れて行って、そこは死刑場だった、人を殺す死刑場だったって言うのよ。

梁 最初に連れて行かれて軍人の相手を初めてし

た時のことは覚えていますか。

李 それを忘れるはずがないでしょ。あんなに辛い思いをしたのに、忘れることなんてできないよ。日本に私が行ったら、李玉善ハルモニ有名だって言われる。なぜか。日記帳も何もないのに、その長い歴史をどうして全部話せるのかって。私がされたことなのに、どうして忘れることができますか。いいことなら忘れるかもしれないけど、いいことじゃないから、一度死んで帰って来たのに、死刑場から生き返ったのに、それを忘れるということはないよ。これは死んでも忘れられないよ。

引越した慰安所について

梁 後で引越した慰安所も名前は第一慰安所です？

李 そうだよ。同じだよ。看板は。

梁 大きな家は部屋がいくつでしたか。

李 大きな家はこういうふうになってて、こうこう……。部屋が多かった。出入り口はひとつしかないから。入って来たら廊下があって。

梁 廊下があって、女たちの部屋がこうあって。

李 こっちに部屋が二つあって、こっちにも二つあって、こっちには部屋がない。こっちは主人の家で、ここに部屋があって、こっちにも一つ、こっちにも一つ。ここに食堂があって、横には主人がいて……。ここは庭が広い。大きな門があって、ここに軍人たちが来ると庭に並ぶ。

梁 一部屋に軍人が二人、三人入って来たのは、こっちの慰安所の話ですか。

李 うん、そう。

梁 ここには全部で女性の部屋がいくつありましたか。

李 だから、6個…、こっちに5個、こっちに4個あったな。

梁 全部で9室くらいですか。女性は何人いたんですか。部屋数より女性が多かったんですか。

李 いや、全部の女に部屋が一つずつあった。

梁 じゃあ、どうして一つの部屋に軍人が二人、三人入るんですか。

李 各自部屋はあるんだけど、軍人を受けたじゃない、受けたのに、またその人を指名する〔軍人が来る〕わけよ。だから、ちょっと待てと。行って来ると。その人を待たせておいて来て、だから一部屋で二人とか三人。こうなる。

梁 あ、女性は一人なんですか。

李 いや、先に来た軍人を待たせておいて。

梁 ごめんなさい、どうしても理解できない。

李 一つの部屋に女が一人。軍人が入って来た。入って来たんだけど、また軍人が来るわけだ。でも、ダメじゃない。

梁 他の軍人がいるから。

李 うん。だから、その軍人にちょっと待ってろと言って、新しく来た方の軍人も相手にする。そうすると部屋がないじゃない。だから、他の部屋に入っていくのよ。

梁 他の部屋の女が、別の部屋に入っていくんですか。

李 うん、自分の部屋には軍人がいるから仕方ないじゃない。

梁 先に来た軍人を帰すわけにはいかないんですか。

李 そうだよ。

梁 それで、ここで待っててと言って、他の部屋に行くんですか。

李 そう。今考えると……。

梁 どうしてそんなことをするんですか。

李 私たちには分からないよ。軍人たちがそうするから。

梁 こういうことですね。ハルモニの部屋に軍人

が来ているんだけど、他の部屋の女のところに軍人が二人来たので、一人を部屋に置いておいて、新しく来た軍人を連れてハルモニの部屋に来るといことですね。

李 そう。

梁 その間、その女性の部屋では軍人が待っている。

李 そうだよ。それで、〔ハルモニの部屋に連れて来た軍人を〕送り出して、また〔自分の部屋に〕戻って行く。だから、慰安所がどういうところか考えてみなさい。

梁 そこまでするのは、たくさんの軍人の相手をしてお金を儲けて早く借金を返済しようと……。

李 そう、そのとおり。そうだよ。

梁 主人がそうさせたのではなく、女性たちが自分で。

李 女たちが自分でというよりも、軍人たちが待てなくて、怖いから、他に方法がないんだよ。主人は関係ない。

お使いのこと、軍人の暴行

吉見 ハルモニはお使いに行ったということでしたが、どれくらいの頻度で行ったんですか。

李 私はあの家ではよくお使いに出されたよ。

吉見 一人で行くんですか。

李 もちろん、一人で行く。そうやってお使いに行くから私は中国語をたくさん覚えたんだよ。その時、日本語もよく覚えたから、あの時くらいできたら通訳もいらなないんだけど、もう忘れちゃったから通訳してもらわないとダメ。

吉見 ハルモニ一人でお使いに行かせながら、主人は逃げるのではないかと心配しなかったんですか。

李 そう思わないから行かせる。信じてるから。こちらの立場で考えても、逃げると言ってもどこ

に逃げる？ 道も分からない、お金もない。逃げようと思えばいくらでも逃げられるよ。でも、道も分からないし、お金もないし、服もないから、本当に生活が苦しい。それなのに逃げて、いったいどこに行くの。遠くに行けずにまた捕まって、捕まって来るのに、逃げることもできないよ。
吉見 お使いに行ったのは最初の小さな慰安所の時だけですか、大きな慰安所でもやったんですか。

李 後で行った慰安所で。最初行った時は分からないじゃない。お互いに気持ちが分からないでしょ。でも、私は元々心がきれいな人間なのよ。だから神様が私を守ってくれる。

吉見 軍人に斬りつけられたことがありますが、それは軍人の相手をするのを嫌だと言ったからそうされたんですか。

李 兵士たちが入ってくれば大丈夫なんだけど、位の高い人は自分勝手にしても、誰も止められないじゃない。だから入ってくると女たちとけんかになる。それで原因は何か。軍人がこうしろと言ったら、言われたとおりにしなきゃいけないんだけど、私が言うことをきかない。それで喧嘩して、「どうして殴るんだ」と言うと、「このアマ殺すぞ」と、こうなって刀を振り回す。だから私たちはどうすればいいの。方法がないんですよ。だから位のある人を相手にして、私も刀で斬られた。血がどくどくと出ても、管理する人も止められない。主人も止められない。刀で斬りながら死ねって、そうしたら主人も止められない。

吉見 言うことを聞かなかったということですが、どういう要求をされたんですか。

李 そこまでは言えない。それは他の話と違って、あまりにも酷い話だから、言えない。

吉見 日本人慰安婦はかなり自由だったと言っていました、その人は嫌な軍人だったら相手にし

なくてもいいということがあったんですか。

李 軍人が来ても何とも思わないよ。その人は軍人を連れてただ座っていても、主人も何も言わない。だからその人は何とも思わないよ。

梁 大きな家にいた時にいた人ですか。

李 大きな家に移ってから。

梁 ハルモニよりも後から来たんですか。

李 うん、後で。

親しくなった軍人のことと日韓「合意」

吉見 慰安所ですと暮らしていくのは大変だったと思いますが、生き抜いて行くために工夫したことがありますか。

李 私は今でも気が確かです。歳を取って、気が確かでなくなっていたら、こんな話もできない。だけど、慰安所の話は本当にしづらなんだよ。どうして私が将校と喧嘩したかと言うと、服を全部脱がせて自分がやりたい通りにやらなきゃいけないと言うから。でも、それは嫌だってことよ。こんなことを誰に言えるのかってことよ。できないよ。だから私が軍人も悪いて言うのよ。

でも、面白い男が一人いたよ。この人は本当に面白い。日本の軍人で兵長と言って、班長だ。ここに黒い線がひとつ、ふたつ付いてる人なんだけど、名前は忘れちゃった。兵長。2本線が入ってる。その人は私と親しかったんだけど、その人が私に何て言ったかと言うと、自分は除隊する日になって故郷に帰るんだけど、その時にはトミ、自分と一緒にいこう、一緒に日本に行つて暮らそうと、そう言った。それから腕時計をくれた。でも、私は嫌だと、要らないと言ったの。自分も要らないからトミにあげると言いながら日本と一緒にいこうって言ったんだけど、ある日、その友達が私のところに来て、誰々が時計を持って来いと言ったと、どうして本人が来ないで人に頼んだの

かと聞いたら、自分は忙しくて行けないから、ここに来る人に持って来てくれと頼んだって言うのよ。それであげたの。日本と一緒に行こうと言っておいて、行くとも言わずに黙って行ってしまった。こういう人が一人いたよ。

その人が、その時は私はまだ20歳にもならない、年は若かったけど、その軍人は私よりも年上じゃない？ だから長生きしたなら今でも生きているだろうし、でも、私が90歳だから、その人は90歳越えてるから生きていないでしょう。死んだでしょう。それで私は日本に行くたびに、その人に会ったらどうしようかって心配してたんだけど、会えなかった。私は名古屋には行けなかったけど、日本は全部行きましたよ。名古屋には行ってない。

梁 その人の出身はどこだったんですか。

李 それは、私は分からない。そういうのは私たちは分からない。ただ、そういう軍人が一人いたよ。

梁 軍人たちは故郷がどこだといった話はしませんでしたか。

李 しないよ。私たちも聞きもしないし。そんなこと聞いてどうするの。ただ、そういう人が一人いたってことよ、私が言いたいのは、今までいろいろインタビューしても、今日、先生方と話したみたいな話はしたことがない。私がこんな話はしない。してどうなるの？ 今、先生たちにお話するのは、学生たちに事実を教えて欲しいからです。日本が、教科書を変えろと言っても変えないし、今も教科書を変えないで、ハルモニたちの歴史も教えないから、先生にも聞いてみたんじゃない。教科書も変えないで、そこに何をあげたかというと、「独島〔竹島〕は日本の領土！」、これひとつだけあげてるじゃない。本当に独島が日本の領土なの？ 違うでしょ。どうして教科書を変え

ろと言っているのに、変えないでそんなことをするのか、ハルモニたちの歴史を書けて言ってるのにやらないで、独島は日本の領土って、ソウルの真ん中に棒を立てて、ここは我々の領土だ、こんなのは話にならない。それでも足りなくて今は中国と喧嘩になってるじゃない。こんなことしちゃダメよ。

それから少女像に反対して、それをなくしたくて何か言ってる。こんなだから日本と仲良くできないんだよ。それからお金少しで合意するって。この合意は何か。お金を少し持って来てハルモニたちの口を塞ごうとしてるんだよ。合意をするなら、「慰安婦」被害者ハルモニと合意しなきゃ。そうじゃなくて、政府と合意してる。こんなのは完全に間違い。日本ではハルモニたちが強制的に連れて行かれたんじゃない、自分の足で歩いて金儲けに行ったって言ってるじゃない。私たちが金儲けに行ったなら、どうして日本政府に謝罪しろ、賠償しろって言うかってことよ。そうじゃない？ ハルモニたちはいい言葉も聞けないで、いっつも嫌なことばかり聞かされるから、どうやって日本と対話したらいいのかってことなのよ。私は安倍に一度会ってみたいんだけど、会えないから腹が立つのよ。

中国人経営の売春宿へ移される：借金の累増

李 昨日私が「ハイメン」って言ったら何か分からなかったでしょ。こういうのよ〔海綿をさす〕。こういうのを中に押し込んで、関係をするんだよ。だから私たちは大変よ。これを入れなきゃいけないんだから。これを入れて、どうやって相手するの。男たちはいいけど、私たちは大変。

吉見 慰安所にいる時に韓国人の男性と仲良くなったそうですが。

李 それは慰安所で親しくなったんじゃない、

私が慰安所に最初に行つてすぐの時に、私がこの家から出ると、ここには入れないと、泣いて大騒ぎをしたの。そしたらその家で私を売り飛ばしたの。慰安所から中国人の家に売り飛ばした。その中国人の家でその男と出会ったの。それでその家に少しいた。15日くらいか、1ヵ月もいなかった。その中国人の家が慰安所よりも酷いのよ。汚いし。そんなところでその男に出会ったんだけど、それはその人の友達が私を紹介したの。それで会ったの。慰安所というところは軍人しか入れない。他の人は入れない。その人は軍人ではない。元々、強制奉仕よ。強制奉仕で来て小隊長のようなことをしていたの。それで私が会ったんだけど、中国人のところにいたら慰安所より悪くて、そこで病気〔性病〕にかかって私が苦勞したのよ。で、その病気を完全に治してから、その男に出会ったの。それから私はまたその慰安所に戻ったの。

梁 どういうふうに戻ったんですか。

李 その家が嫌で、中国人の家が嫌で、行ってみたら慰安所の方がまだましだった。汚くて。だから元の慰安所に戻った。そしたら、その男はそこにまた来た。一緒にいた人が、その男が来ることに目をつぶってくれた。元々は入れないんだけど。でも、目をつぶってくれた。解放後に、私たちは解放されたことを知らなかったんだけど、とにかく解放後に出て来て、ご飯が食べられないから、よその家に行つてご飯をもらって食べてた。もらい食いをするんだけど、もらいに行くたびに怒鳴られたりする。家もない、寝るところもない時に、その人が私を訪ねて来たの。それで自分の家に行こうって言うから、その人と結婚したのよ。

梁 その中国人の家というのは、中国人が経営する売春宿ですか。

李 そう。慰安所と同じようなものだよ。ところが衛生が良くなって、それで病気になったんだよ。私も分からないから、それで嫌になって、元の慰安所に戻ったのよ。

梁 慰安所に戻りたいと言えば戻れたんですか。

李 その慰安所がお金をもらって私を売り飛ばしたじゃない。だからそのお金を返せば、また私を取り戻せるわけよ。

梁 それがまた借金になるわけですね。

李 そうだよ。自分たちが私を売り飛ばしておいて、私の身代金〔借金〕にするわけよ。だから私たちは本当に悔しいわけよ。

吉見 その中国人の家にはどれくらいいたんですか。

李 長くいなかった。1ヵ月もいなかった。

吉見 その中国人の家は慰安所の近くですか。

李 うん。同じ村だから。もう今では日本で私を知らない人はいない。

1945年8月：慰安所からの解放と遺棄

吉見 慰安所で解放を迎えた時の話をしていただけますか。

李 解放されたんだけど、朝私たちが起きたら、主人もいないし、ご飯をつくってくれていた人もいなくて、私たちはご飯も食べられなかった。私たちは〔朝鮮が〕解放されたことを知らなかったのよ。主人が私たちには言わないで逃げちゃったんだよ。捕まったら死ぬから、中国人に捕まったら殴り殺されるから。だから夜に黙って逃げたんだよ。その時、女が七人いた。その七人がみんな部屋に集まって座ったの。どうしてご飯炊きの人もいないし、主人もいないのかって。

そうやって七人が集まって座っていたら、日本の軍人が一人入って来たの。一人入って来て見たら、私たちがいるじゃない。お前たちはどうして

ここに座ってるんだって。お前たちこんところに座り込んでたらみんな殺される、どうして避難しないんだって。その時、私たちは避難がなんなのか、解放がなんなのか分からないから、どういふことなのかって。お前たちは解放された、出て見ろって。出たら、市内が火の海。じゃあ、私たちはどうすればいいのか。お金もない、服もない、知り合いの家もない、行くところもない。そしたら軍人が避難しなきゃいけないって。避難はどこに避難すればいいのか。山に行けと。それでその軍人に付いていったのよ。今でも私が中国に行けば、その山の前行ける。高い山なんだけど、大きな木があって、そういうところに避難したのよ。

ところが食べるものがない、お腹が空く。軍人は三人、三人いたんだけど、それが私たちを捨てるために山に連れて行ったのよ。避難じゃなくて。そもそも私たちを強制的に連れて行ったなら、日本人が私たちを連れて帰って来なきゃだめじゃない。ところがそうじゃなくて、私たちに嘘をついて、私たちを捨てて、夜に自分たちだけ逃げちゃったんだよ。私たちをそんなところに捨てたら、私たちはみんな死んじゃうでしょ、どうやって生きられるの。日本の国が私たちに何をしたか考えてみてくださいよ。とにかく私たちはご飯も食べられなくてお腹が空く。そしたら軍人がお前たちここで待ってろ、俺たちがご飯を持って来る、そう言って行ったっきりだよ。夜になったら虎が出て食べられちゃうようなところに私たちを捨てて、自分たちだけ行っちゃったんだよ。だから、私たちはどうすればいいのか。降りてくることができないんだよ。山がすごく高いから。人が通らないところだから道もないし。そんなところに捨てて、行ってしまった。

朝鮮人男性との結婚と離別

梁 その降りて来ることができない山からどうやって降りて来たんですか。

李 犬のように這いつくばって、手で道をつくりながら、こういうふうにして降りてきた。〔這いつくばる姿勢をして〕こうやって降りて来たんだけど、市内に行ってみたら、みんな避難していないんだから、どこでご飯が食べられる？ その日の夜もご飯を食べられなかった。本当に大変だった。それからご飯をもらって歩いていた時に、夫が私を探しに来て、本当に嬉しかった。だから行ったんです。行ったんだけど、その家も本当に貧乏な家でした。

吉見 その夫になる人に会って間もなく結婚したんですか。

李〔無言で頷く〕あの時、夫は軍人でした。

梁 どの国の軍人ですか。

李 韓国の。あの時は、解放されたから部隊がみんな解体されるじゃない。解放軍に参加したのよ、うちの夫は。

梁 朝鮮軍、中国軍？

李 いいや、韓国人。あの時、写真を撮らなかったことが悔やまれるんだけど、そこには写真館がない、写真を撮る人がいないの。今でもないよ。あの人は本当に器量も良くて賢い人だったのに。

吉見 北朝鮮の軍隊ですか。

李 いいや、韓国よ、韓国。韓国人なんだけど、中国で生まれた。両親が昔、ここから中国に行った。

吉見 その人とはどれくらい一緒に暮らしたんですか。

李 その人とは長く暮らせなかった。結婚して4日後に別れた。部隊にいるから、軍人としているから長く一緒にいられない。結婚してすぐに行かなきゃだめで。周りの人に言われたよ。結婚して

4日で別れる人、初めて見たって。夫は日本の部隊に強制的に連れて来られて奉仕をしたんだけど、仕事ができるから部隊の中で小隊長級になったんです。小隊長をしてたから、人に怒鳴ったり、殴ったりすることもあったのよ。それから叔父〔夫の父親の弟〕が巡查をしていたの。〔聞き取り不能〕夫も捕まるところだったんだけど、誰かが来て耳打ちしてくれたわけよ。この家の長男は避難させろって、いつか捕まえに来るって。それで避難して、1年で帰って来ると言ったのに10年経っても帰って来なかった。夫が出て行ってから12年間、私が嫁ぎ先の家族を食べさせたんだよ。そんなふうに住らした。

梁 12年後にどこに行ったんですか。

李 ソ連。ソ連に行って1年したら私を連れに来るって言ったのに、結局、他の女と一緒にになって子どもを産んで暮らしてたんだよ。ところが私は来ると思ってずっと待ってたんだよ。でも、来なかった。

梁 夫がソ連に行ったんですか。

李 最初は北に行ったんだよ。

梁 結婚から4日後に北朝鮮に行ったんですね。

李 うん。

梁 それはどうして北朝鮮に行ったんですか。

李 なぜ行ったかと言うと、日本の部隊にいる時に小隊長のようなことをしていた。だから清算を受けるわけ。清算されて何も残ってなかった、全部奪われて。その時に避難すると言って北朝鮮に行って、北朝鮮に長くはいられなくてソ連に行ったの。ソ連に行ったんだけど、そこにも長くいられなくて、また北朝鮮に行って結婚して暮らした。

梁 北朝鮮で結婚したんですか。

李 うん。

梁 それは、どういうふうに行ったんですか。

李 私たちは分からないけど、中国から北朝鮮に人々がよく行くのよ。だから見た人がいて教えてくれて分かった。それで私が再婚した。でも、その元の夫と別れても、未だに離婚した証明もない。舅が判を押してくれて離婚したわけ。

梁 夫をどれくらい待っていたんですか。

李 12年。

梁 舅が離婚しろと言ったんですか。

李 舅が離婚しろと言ったわけではない。何しろ生活が苦しかったの。私が故郷に帰りたくても、汽車賃をくれなければ帰れないじゃない。お金がないから汽車賃ももらえない。だから、私はその家にいるしかなかった。それで、私がどこに行ったかという、靴をつくる工場で働いて家族を養ったのよ。そんなふうにして12年待った。12年後に中国から行った人が夫に会ったのよ。それで分かったわけよ。

梁 北朝鮮で？

李 うん。

梁 北朝鮮で見た夫は結婚をしていて、子どももいたんですか。

李 結婚して子どもが四人も産まれるまで私は知らないで待ってたの。それが分かったのに、どうして私がその家で苦勞しなきゃいけないの。

梁 それでそこを出たんですか。

李 夫の家で私をまた他の家に嫁に出したの。それがまた家も持っていないような貧乏な家に私を出したのよ。だから私は解放されて慰安所を出てから、また本当に苦勞したよ。

梁 ハルモニ、今日は本当にありがとうございます。

Ⅲ. 2016年7月31日の聞き取り(於：ナムムの家)

家族のこと

吉見 今年3月にお話をうかがいましたが、よく

聞いていないところがあり、補充の質問をお願いします。まず、ご兄弟は何人いらっしゃったんでしょうか。

李 八人。私が2番目。

吉見 男女構成はどうなっていたんでしょうか。

李 男五人、女三人。

梁 順番に上から……。

李 私の上に兄が一人、次が私。

梁 あとは弟が四人、妹が二人ですか。

李 うん、妹は二人。

吉見 お父さんはいろいろなお仕事をされて、大阪にも行かれたと聞きましたが、普段はどんな仕事をしていたんですか。

李 普段は、私の父は職業がありませんでした。日雇い労働。仕事があればするし、なければできない。父も学校に行けなかったから、きちんとした職業がない。職業がないから、日雇いの仕事があればする。

吉見 お母さんはどんな仕事をしていたんですか。

李 お母さんも同じ。コンナムル〔豆もやし〕を売ったり、市場に出て野菜を売ったりしてた。

梁 コンナムルの商売ですか。

李 うん。コンナムルを売ったり、野菜を売ったり。

梁 それはお母さんが栽培して売っていたんですか。

李 いや。

吉見 暮らしていた寶水洞というのは町中ですか、田舎ですか。

李 市内。釜山市。

吉見 周りに田んぼや畑があるわけではないんですね。

李 ないです。

吉見 お父さんはお酒が好きということでした

が、たくさん飲んでた記憶はありますか。

李 たくさん飲んだ。

吉見 学校に行きたかったけれども行けなかったということですが、学校に行かないでどういう仕事をしていたのでしょうか。普段はどういうことをしていたのでしょうか。

李 仕事はない。弟妹の面倒を見ながら留守番してた。他に仕事はないよ。

梁 お母さんが働くために、ハルモニが家で弟妹の面倒を見なければいけないんですか。

李 そうです。

吉見 14歳の頃に働きに行ったらどうかとお母さんに言われたんですよね。

李 そんなことはなかった。

吉見 養女になれば学校に行けると言われて行ったのが14歳でしょうか、15歳でしょうか。

李 15歳。

梁 数えで？

李 うん。いや、満で、満で15歳。だから〔数えだど〕16歳だよ。

うどん屋から飲み屋へ

吉見 養女になって行った家はどんな家でしたか。

李 食堂。うどんを出す食堂。

吉見 お手伝いをしなければならなかったんですか。

李 うどん屋なんだけど、酒も出す。その家で私を連れて行って食堂に出して金を儲けようとしたんだよ。ところが私が言うことをきかない。どうして私がそこに出なきゃいけないのかって、それで出なかった。そうしたら、その家で私を蔚山に送ったの。蔚山の飲み屋に私を売り飛ばした。私の実家には知らせないで。行く本人も、売り飛ばされたんだか何だか分からないで行ったのよ。

行った後で知ったんだよ。

吉見 そのうどん屋さんにはどれくらいおられたんですか。

李 長くいなかった。

梁 おおよそどれくらい？

李 数ヵ月。長くはいなかった。

梁 そのうどん屋さんは釜山鎮でしたね？

李 うん、釜山鎮。

吉見 釜山鎮は地名ですね。

李 はい。

吉見 酒の席に出るというのはどういう意味だったのでしょうか。

李 酒の席に入れって、そんなことがあった。私は言うことをきかなかった。

梁 絶対に入ろうとしなかった？

李 うん、入らなかった。

梁 そこで酒を注いであげたりしろということですか。

李 そうだよ。でも、私はしなかった。

吉見 それから蔚山の飲み屋に売り飛ばされたのでしょうか。

李 そこも飲み屋なんだけど、すごく大きな飲み屋。妓生たちが来て歌を歌ったりしながら酒を売る店。そういう大きな店。そこに行って食母〔家政婦〕をした。ご飯をつくる食母。

吉見 料理をつくるんですか。

李 そうです。

吉見 そこでの仕事は大変でしたか。

李 大変だよ。夜遅く、12時までやるんだから。まだ歳も幼くて、何も分からないじゃない。何もできない人が食母をするのは大変だよ。

吉見 朝も早くから仕事するんですか。

李 早く起きないと、早く起きて朝ご飯をつくるんだから。

梁 朝はお客さんの食事じゃなくて、

李 家族の食事。

梁 夜はお客さんの食事までつくったんですか。

李 いやいや。

梁 いつも家族の食事だけ？

李 うん。

梁 お客さんの食事は専門的な人たちが作って？

李 そうだよ。

吉見 家族は多かったんですか。

李 多い。

梁 どれくらい？

李 主人の家に夫婦と子どもがいて、妓生が3人、またその小間使いがいて、お客さんの料理をする人もいるし、食母が二人。

梁 食母はハルモニともう一人か二人？

李 うん。

梁 では、その二人で今言った人たちの食事の支度をするんですか。

李 うん。

梁 主人夫婦に子どもが何人いたんですか。

李 大きな子どもがいたかどうかは分からない。見たことがないから。私がいた時には赤ん坊が一人いた。

梁 妓生は外からも来るんですか。

李 いや。

梁 じゃあ、いつもこの妓生三人が、その家で寝起きして、客の接待をするんですか。

李 うん。客の接待をする。

吉見 全部で何人くらいになるんですか。

梁 全部で、夫婦、赤ん坊、妓生三人、小間使いが一人？

李 うん、一人。

梁 客の料理をつくる人が？

李 二人。

梁 それからハルモニと、もう一人の食母。〔ハルモニまで入れて全部で11人〕

李 うん。

吉見 料理をつくることは習ってなかったと思いますが、どのように食事をつくったんですか。

李 先に行ってやってた人がいるじゃない。だから、その人を見ながら習うんだよ。

吉見 そこでは怒られたりしたんですか。

李 そこでも怒られたよ。仕事ができなくて言うって。毎日のように叩いて怒鳴って。

梁 怒るのは先輩の食母ですか？ 主人ですか？

李 主人だよ。

梁 主人の男の方が？

李 男も、女も。

吉見 売り飛ばされたということですが、借金はいくらくらいあるといった話を聞いたことがありますか。

李 300ウォンあるじゃない。

梁 300ウォンで売ったっていう話ですか。

李 うん。

吉見 それは、ハルモニが働いて、そこから返済することができそうだったんですか。

梁 蔚山に行ってすぐに300ウォンで売られたという話を聞いたんですか。

李 うん、そう。

梁 それじゃあ、働きながら少しずつそれを返したんですか。

李 返す間もないよ。もともと時間がない。私が主人のお使いに出て、引っ張られて行ったから。主人のお使いに行って帰って来る時に、大きな道で日本人が二人、前を塞いで、何も言わずに一人がこっちの腕、もう一人がこっちの腕をつかんで有無を言わず連れて行かれたんだから。

延吉への連行

梁 時間がなかったということですが、蔚山に売り飛ばされてから捕まえられるまでに、どれくら

いあったんですか。

李 蔚山にも長くないなかった。蔚山に何ヵ月かはいたと思う。

吉見 すると二人の男に連れて行かれた時も……。

李 私を連れて行ったのは、日本人一人と朝鮮人一人。

吉見 連れて行かれた時も数え16歳ですか。

李 はい。満で15歳だから、数え16歳です。

吉見 蔚山の家が主人が、その二人と合意の上でハルモニを引っ張って行ったということはありませんでしたか、そういう感じはしなかったでしょうか。

李 違うと思うよ。知らないと思う。大きな道で私が連れて行かれたんだから、誰も知らないよ。

吉見 二人の男に捕まって飛行場で働かされましたね。その飛行場は延吉なのか、図們なのか、どちらでしょうか。

李 東飛行場。東にあったから東飛行場。今でもあります。

梁 地名は図們ですか、延吉ですか。

李 図們。

梁 延吉ではなくて？

李 延吉の市内だよ。図們を過ぎて延吉だよ。

梁 今でもその飛行場があるっておっしゃいましたよね。そこに行ったことがありますか。

李 行った。でも、そこに個人の家がたくさん建ってた。

梁 今は飛行場ないんですか。

李 飛行場はなくなった。そこに個人がみんな家を建てたから。その土地に家を建てたから飛行場はなくなって、敷地はそこにある。

梁 その場所は どうやって分かったんですか。

李 私が行って見たから。

梁 いつ頃ですか。

李 随分前.

梁 ハルモニは韓国に来る前、延吉にいたんですか.

李 うん.

梁 その延吉から飛行場が近いですか.

李 近いよ.

梁 一人で行ったんですか.

李 一人じゃなくて、二人.

梁 誰と？

李 一緒に連れて行かれた友達と二人.

梁 友達と二人でどうしてそこに行くことになったんですか.

李 連れて行かれたのは私一人じゃなくて、道を歩いていた人五人、私まで合わせて六人が連れて行かれた。ところがそこに、図們に行って別れたじゃない。私たち二人だけ飛行場に行ったわけ。自分で行ったんじゃないくて、あの人たちに連れて行かれたの。そして、そこで働かせた。とてもたいへんだった。

梁 それで、その友達と二人、解放後に飛行場を訪ねて行ったんですか.

李 そうだよ。解放後に.

梁 いつ頃ですか。ハルモニがいくつの時ですか.

李 19歳.

梁 解放後訪ねて行ったのが、ですか.

李 そこに行くのは自分で行ったんじゃないくて、連れて行かれた.

梁 [話がうまく通じていないようなので質問を変えて] では、そこは図們の方が近いですか、延吉の方が近いですか.

李 図們からは地区が違うからちょっと遠いよ。でも、私たちは同じ延吉市内だからちょっと近い.

梁 飛行場は延吉市内ですか.

李 延吉市内。あれも延吉市内だから.

梁 図們は延吉市とは別で.

李 ああ、別。違うよ.

延吉の東飛行場でのこと

吉見 東飛行場で働いた期間がどれくらいだったか覚えていますか.

李 飛行場では長く働いていない。2、3ヵ月働いたかな。多分、2、3ヵ月だと思う.

吉見 まだ若い頃ですよ。そこで飛行場をつくる仕事としてハルモニはどんなことを具体的にしたんですか.

李 日本が中国を侵略して入って行ったんだけど、飛行場があるんだよ。飛行場があるんだけど小さい。だから大きくする時なんだよ。飛行機が入る道をつくるんだよ。草を抜いたり、鎌で刈ったりしたんだよ.

梁 鎌は大きな鎌ですか.

李 いや、小さいやつだよ.

梁 雑草を取るための鎌ですか.

李 そう.

梁 または道をならすための…….

李 そうだよ。鎌ってものは草を刈るためのものだよ.

梁 それでは草を取るのが主な仕事だったんですね.

李 そう.

吉見 飛行場で働いている時に軍人から性暴力を受けることはありませんでしたか.

李 そんなことはなかったけど、随分殴られた。ここ〔鼻〕を殴られて、血がパーっと出たりした.

吉見 殴られる理由は何ですか.

李 仕事をちゃんとしないって。小さい子が大した仕事できないじゃない。仕事を早くたくさんし

なきゃいけないのに、こんなこんなふうにしてたら、もっとちゃんと働けて。

吉見 ハルモニと同じような仕事をしていた女の子はどれくらいいたんですか。

李 アイゴ、多いよ。何百人も。千人はいなかったと思うけど。

梁 それは女の子ばかりですか。

李 男もいる。男は若いのは軍人にされたけど、そういうのを連れて来た。

梁 歳を取った人もいたんですか。

李 いない。

梁 男も女も若い人ばかり？

李 みんな幼かった。

吉見 その人たちはみんな軍人によって無理矢理連れて来られたって話してましたか。

李 そうだよ。みんな強制だよ。自分で行った人はいない。男でも、女でも。

吉見 軍人たちは急いで飛行場を整備しているという感じがありましたか。

李 そうだよ。

梁 急いでいるようでしたか。

李 うん。

吉見 ハルモニはそこで働きたくないと言った人たちに言ったんですか。

李 そりゃあ、言うよ。言わないではいられないでしょ。私たちが家に帰してくれと。お腹が空いたし、寒いし、ここでは働けないと。しょっちゅう抗議するから、その時に私たちが慰安所に連れて行ったんですよ。

抗議するとだまされて慰安所へ

吉見 だから家に帰してやると言って慰安所に入れられたんですね。

李 そうだよ。

梁 その時に一緒に慰安所に連れて行かれた女が

他にもいたんですか。

李 一人、二人、三人、四人、五人、六人、七人だ。

梁 七人。その時一緒に慰安所に連れて行かれたのが七人ですか。

李 うん。

吉見 それが同じ慰安所に入れられたわけですね。

李 うん。

中国人経営の売春宿で梅毒にかかる

吉見 ハルモニはそこで抵抗したので、中国人が経営する売春宿に入れられたんですね。

李 そうです。

吉見 その中国人の経営する店は待遇がすごく悪かったと聞きましたが、どのような状態だったのでしょうか。

李 慰安所よりきれいじゃないの。だから慰安所にまた戻った。

梁 きれいじゃなかったということだけが理由ですか。

李 その家で私が病気にかかって苦労したから。

吉見 うつされた病気というのは性病だと思うんですが、具体的にはどういうものですか。

李 ハルゲ病だよ。

梁 ハルゲ？

李 うん。それがハルゲ病って言うんだけど……。

梁 花柳界？〔花柳界を朝鮮語で読むと「ファリュゲ」〕

吉見 あ、花柳病？

李 梅毒、梅毒〔日本語で発音〕。

吉見 梅毒ですか。それはいつ、うつされたことが分かったんですか。

李 四肢にできものができてかゆいから分かつ

た。

梁 腫れたりもするんですか。

李 腫れはしない。

吉見 治療はどこで受けたんですか。

李 その家で治療した。

吉見 どんな治療をしたんですか。

李 シオンを使って。これはちょっと説明が難しいんだけど、シオンっていうのがあるの。

梁 スウン、水銀ですね。水銀をどうするんですか。

李 火にかけて煙を……。

梁 煙を吸うんですか。

李 いや、下に。

梁 シオンというのは、銀色でちょっと光った色をした水銀のことですね。それを焚いて煙を下にあてるんですね。

李 うん、そう。

吉見 煙があたると痛いんですか。

李 なんともない。

吉見 606号注射を打たれたことはないんですか。

李 たくさん打たれたよ。

梁 それは中国人の店で、ですか。

李 いや、中国人の店でも打ったけど、慰安所でも打った。

吉見 性病をうつした相手がどういう人か分かりますか？ 中国人ですか、日本の軍人ですか。

李 いやいや、日本の軍人がそんなことしちゃダメだから、中国人の店でうつされたんだよ。

梁 その中国人の店では中国人の相手をしたんですか。

李 そう。

吉見 中国人のその店にはどれくらいの期間いたんですか。

李 多分3ヵ月くらいいた。

吉見 性病にかかったことが分かって、治療をし

ただ治療が終わらないうちに慰安所に戻ったのでしょうか。

李 いや、完全に治ってから。完全に治ってきれいだから慰安所に戻れた。

吉見 3ヵ月で治ったんですか。

梁 全部で3ヵ月いた間の、いつ頃性病にかかって、それを治すのにどれくらいかかったんですか。

李 それは私は分からないよ。掌握していないから。全部忘れちゃったし。

慰安所で

吉見 梅毒が治って元の慰安所に帰った後は、そこで軍医の性病検査を受けるようになったのでしょうか。

李 うん。

吉見 それは定期的に検査したのでしょうか。

李 うん。

梁 それはどのくらいの期間に1回ずつ検査するんですか。

李 元々、慰安所では1週間に1回ずつ検査します。

吉見 その検査の時には慰安所に軍医が来るんですか。それとも病院に行くんですか。

李 来ます。慰安所に来ます。

吉見 慰安所の中で治療をしたり606号を打ったりしたんですか。

李 [606号は] 病院で打った。慰安所には注射を打てる人はいないから。

梁 では、検査には来るけど、そこで病気が分かると病院に行くんですか。

李 そうだよ。

吉見 ハルモニはその病院に行ったことはないですか。

李 どの病院？

梁 606号を打ったりする病院です。

李 病院に行って打つんだよ。

吉見 何の治療ですか。身体の調子が悪くて治療したのか、性病の治療だったのか。

李 軍人たちが来て検査するのは、ほんの少しできものがあっただけでも病気だって言われた。そうすると、病院に行って注射を打って言われる。そうすると、主人が連れて行って注射を打つ。

吉見 慰安所の中で慰安所の管理人が借金があるから借金を返すために軍人の相手をたくさんするように言って慰安婦にされた女性たちが競って軍人の相手をしたと、こないだおっしゃいましたが、それについてハルモニはどう思いましたか。

李 うん、うん。そう、そういうことがあった。どう思ったかって、おかしな話じゃない。どうしてそんなことで争うの。

梁 じゃあ、ハルモニはそういう争いはしなかったんですか。

李 私はしなかった。一回も争ったことない。

吉見 慰安所では慰安婦の人たちの名前を源氏名にして名札を出したりしたんですか。

李 そう、その通り。木の札をこのくらいに作ってかけておいて、その下に座らされた。軍人たちが来て自分の気に入った子を選ぶ。

吉見 座っている場所は建物の中ですか。

李 そうだよ。中。

吉見 外からも名札や慰安婦の女性たちの姿が見えるんですか。

李 入って来てから見るんだよ。外からは見えないう。

吉見 何人がそこに座っているんですか。

李 多いよ。15～16人。

梁 それは後から移った大きい方の慰安所ですか。元いた小さい方の慰安所ですか。

李 小さい慰安所というのは別物じゃなくて、その慰安所が家が小さかったから大きな家を建てて引っ越したんだよ。

梁 では、15～16人というのは大きな家に引っ越した後で、その前の小さな家の時には15～16人もいなかったということですか。

李 そうだよ。

梁 引っ越す前の小さな家には女性が何人くらいいましたか。

李 七人か、八人か、それくらいしかいなかった。

一部屋で二人の場合も

吉見 一部屋で二人の女性が軍人の相手をしたことがあったということですが。

李 何？ その話は。

梁 一部屋で二人が同時に軍人の相手をしたという話です。

李 ああ、そういうことはあった。

梁 それはどういうことですか。よく分からないのですが。

李 私たちだって分からないよ。日本人がそういうふうにするから、日本人は元々こういうふうにするものなのかなと思うだけで、私たちには分からないよ。

梁 女性は朝鮮人ですよ。

李 全部、韓国人だよ。女たちはみんな韓国人。私がいた家には日本人の女が一人いた。日本の女が一人いたんだけど、私たちとは差別する。その日本人の女は軍人の相手をしなくても怒られることもないし、主人と一緒にご飯を食べることもできるし、横の部屋で寝ることもできるし、何をしても何にも言われない。ところが私たち朝鮮人はそうはいかない。たとえ1日に一人でも必ず軍人の相手をしなければいけない。だから差別だって

言うのよ。

梁 こないだ来た時に一つの部屋で二人の女性がそれぞれ一人ずつ軍人の相手をしたことがあったと聞いたのですが。

李 それは、軍人が多いし、部屋がないじゃない。部屋がないから、順番にしなきゃいけないんだけど、順番もなしに軍人たちが急かしてくるのよ。それで女たちが先に来た軍人に待ってると言っ、行くのよ。それで一部屋で二人があんなことをするのよ。

梁 でも、ベッドはひとつしかないでしょ。

李 ベッドは必要ない。

梁 元々はベッドがあるんですか。

李 私たちはベッドで生活していなかった。

梁 ああ、ベッドは元々ないんですね。

李 うん。

梁 部屋に何かを敷いて。

李 普通の畳部屋。

梁 畳？ その慰安所は畳部屋だったんですか。

李 うん、畳部屋だった。

梁 畳部屋に布団を敷いて。

李 そう。

梁 じゃあ、そういう時〔女性がもう一人来た時〕には、もう1枚布団を敷くんですか。

李 そうだよ。

梁 その部屋に布団がもう1組あったんですか。

李 そう。

梁 先に入って来た軍人を待たせるんですか、あるいは後から来た軍人を待たせるんですか。

李 先に来た人を待たせる。

梁 なぜ先に来た人を待たせるんですか。

李 自分の部屋に入って来ているから。後から来た人は外にいるじゃない。先に来た人は自分の部屋に入っているから、ちょっと待ってて言う。

梁 それで外で急かしている人を連れて。

李 そう。

梁 それは、外にいる人がうるさいから、中にいる人と争ったりすると困るからそうするんですか。

李 そうだよ。

梁 じゃあ、そういうことで喧嘩になったりすることもあったんですか。

李 そういうのを聞いたことはあるけど、見たことはない。

梁 ハルモニもそういうことをしたことがありますか。

李 私はそういうことしたことない。

梁 よくそういうことをする女性がいたんですか。

李 そうだよ。

梁 その女性はハルモニの部屋に入って来るんですか。

李 そうなの。だから、日本の軍人たちが来ると、歌を歌いながら入って来るのよ。どういう歌かと言うと、「女の心は便所のスリッパ」〔「 」内は日本語で発音。以下同様〕、こういうふうには、そうすると私たちは「女の心は便所のスリッパとちがう。男が便所のスリッパ」って、こう言ったんだよ。軍人たちが来ると、私たちのことを「便所のスリッパ」って言ったんだよ。

梁 そういうふうには軍人を待たせておいて、他の軍人を連れてハルモニの部屋に来るのは、いつも同じ女ですか。それともそういうふうにする女性が他にもいたんですか。

李 それは一人じゃない。何人かいる。

部隊長専用の「慰安婦」

吉見 ある日、14歳くらいの若い女の子が連れて来られて部隊長専用になったとおっしゃいました

た。そしてその少女が逃げ出したというようなことを聞いたことはありますか。

李 ありません。逃げたりしてない。

梁 そういう女性はいましたか。

李 いた。14歳の子。部隊長が来るんじゃないかと、車を送る。車を送って、その女を乗せて行って、乗せて帰す。

梁 その女性は部隊長だけ相手にしていればいいんですか。他の日に兵士の相手をしなくてもいいんですか。

李 相手しなくても何にも言われぬ。そこに行き寝てくるから。

梁 では、その14歳の女性は最後まで、戦争が終わるまでいたんですか。

李 うん、いた。

逃亡と折檻

吉見 慰安所から逃げて捕まった女性の話を聞いたことはありますか。

李 私が逃げて捕まったんだよ。逃げたんだけど、どうして私が逃げたかと言うと、少尉が一人入って来て喧嘩になったの。で、刀で斬りつけられた。ここ〔右の腕〕を切られて、こっち〔胸〕を斬られてないから死なないじゃない。でも、私は頭にきたから、おい、よその家の大切な娘を強制的に連れて来てどうしてこんなことするんだって、私は出て行くと。でも、どうやって逃げられる？ お金は一銭もないし、中国は広いのに道も分からない。ちょっと行ったところで捕まって引き戻されて殴られる。その時は憲兵が一人来た。日本の憲兵にどういう権利があるかと言うと、人を生かすか殺すか決める権利がある。私をそこに送ったら私は死ぬよ。生きられない。そんな状態で憲兵が一人来た。来て、とにかく私を殴るのよ。お前は どうしてしょっちゅう逃げるのかっ

て。逃げる原因を言えと。

大きな原因はない、お腹は空くし、服もないから寒いし、私たちをどうして強制的に連れて来て乱暴をするのか、だから私は家に帰るんだって、家に帰してくれれば問題ないじゃないかと、そう答えたよ。そしたらまた殴られて、その時に殴られたせいで、両目がよく見えなくなったし、両耳もよく聞こえなくなって、歯も全部抜けちゃって、その時捕まって殴られて、このアマ生意気だ、足を全部切ってしまえば逃げられないだろうって、それで私の足を斬りつけたんです。これ〔右足の親指の付け根〕を全部斬り落とそうとしたんだけど、斬り落とせなくて傷だけ残ってる（写真2参照）。こういうことをされたのに、私たちが日本に謝罪しろ、賠償しろって言わずにいられますか。

吉見 それは最初に入った小さな慰安所でのことですか。引っ越した後の慰安所でのことですか。

李 引っ越した後。

吉見 主人に言われてお使いに行ったのは引っ越す前ですか、後ですか。

李 引っ越した後。最初の家には長くないなかったから。家が小さくて。

梁 最初に小さな慰安所に連れて行かれて、中国人の店に2、3ヵ月いた後、元いた慰安所に戻ったんですよ。その時には小さな家の方ですか。

李 大きな家に引っ越した後。

梁 あ、中国人の店に行ったのも、引っ越した後ですか。

李 いや、それは、その前。

梁 で、中国人の店から戻った時には、その慰安所が大きな家に引っ越した後だったんですか。

李 そう。

梁 小さい家も、大きい家も、同じ慰安所〔第1慰安所〕だということは、主人が同じだということ

とですか。

李 そうだよ。

梁 そして女性たちもみんな移って。

李 そう。

梁 で、人数も増やして。

李 そう、全部同じ人。

慰安所の食事

吉見 慰安所ではお腹を空かせていたということですが、普段はどんなものを食べていたんですか。

李 雑穀、粟飯とか、黍飯とか。日本人は1日3食、白いご飯に肉のおかずを食べてたんだろうけど、私たちはそんなものは見たこともない。豚の餌と同じだよ。豚の餌でさえお腹いっぱい食べられるくらいにはくれない。だからいつもお腹を空かせてた。

梁 おかずは？

李 おかずなんかないよ。

梁 全然？

李 いつも菜っ葉のおつゆくらい。キムチもまぜいのをちょっと出してくれるくらいで、他におかずはない。

梁 ご飯をつくるのは朝鮮人でしたか。

李 朝鮮人。

梁 おつゆは味噌汁ですか。

李 うん、味噌汁。

梁 朝鮮のテンジャングッ〔味噌汁〕ですか、日本の味噌汁ですか。

李 日本の味噌汁。

梁 朝鮮人が作るのにな？

李 うん。

吉見 量も多くなかったということですか。

李 うん、ご飯もいつも少なかった。

吉見 それはみんなで一緒にどこかで食べるんで

すか。

李 みんなで一緒に食べるさ。別々には食べられない。それからブタクサっていうのがある。ブタクサ、ブタクサって言ってたけど、私たちはそのブタクサを食べて生きてた。

吉見 食事は1日3食でしたか。

李 3回くれるさ。1日3食だけど、お腹いっぱい食べることはできない。

最初の性的暴行

吉見 辛い質問をして申し訳ないのですが、ホルモンが最初に性の相手をさせられたのは、最初の慰安所だったのでしょうか、それとも中国人が経営する売春宿だったのでしょうか。

李 最初に行った慰安所。

梁 誰にされたんですか。

李 軍人だよ。軍人しか入れないところだもの。他の人は入れない。

吉見 最初の慰安所ではどれくらい軍人の相手をさせられたんですか。

李 〔最初の慰安所には〕長くいなかった。

梁 何ヵ月くらいですか。

李 3ヵ月くらい。

梁 最初の慰安所も3ヵ月くらいで、中国人の店も3ヵ月くらい？

李 うん。

解放後の生活

吉見 ある日、日本の軍人がいなくなって置き去りにされたことが分かるわけですね？ その後、なぜ山に逃げたんですか。

李 〔これ以降は、さらに疲れた様子で返答が明確でない部分あり。〕軍人たちが私たちを連れて行って捨てたんだよ。だから私たちは解放後にも本当に大変だったんだよ。山に捨てられたんだだけ

ど、私たち以外に誰もいないじゃない。市内に降りて来たんだけど、市内でご飯をもらって食べることもできない。それで田舎に行った。田舎ならご飯をくれる人もいるかと思って。その途中で誰でも男に出会ったら一緒に暮らして、子どもも産んで、そんなふう生き延びるんだよ。

吉見 最初に結婚された男性とは、どういうふうに出会ったんですか。

李 私が会った男は大きな道で会った。

吉見 それは前から知っていた人だったんですね。

李 いいや。その家に行ったんだけど、その家も本当に貧しい家だった。だから、解放後も本当に苦労したよ。

吉見 最初の男性と結婚して、その男性はすぐになくなったと聞きましたが。

李〔無言で頷く〕

吉見 その男性は軍人で、北朝鮮に行って、そこで暮らしていることが後で分かったんですね。

李 いや、その人は北朝鮮の人じゃない。韓国人。

梁 どこに行ったんですか。

李 どこに行ったか分からないよ。消息がないんだから。

梁 その後もずっとない。

吉見 一緒にどれくらいの期間、暮らしたんですか。

李 その男とは何ヶ月も一緒に暮らしてない。

吉見 それで突然いなくなって、その男性の両親と一緒に暮らしたんですか。

李 私が稼いでその家族を養ったんだよ。

吉見 どんな仕事をしていたんですか。

李 工場。靴をつくる工場。そういう工場に勤めて家族を養った。

梁 ずっとその工場ですか。

李 うん。

梁 何十年も。

李 いや、3年くらい。

梁 じゃあ、他の仕事もしましたね。

李 他の仕事もしたよ。ご飯炊きをよくやった。

梁 食堂みたいなどころですか。

李 いいや、食堂じゃなくて、集体〔朝鮮語で「チプチュエ」と発音。中国語で「集体〔jítǐ〕は生産・経済組織を指し、集団の意。〕、集体で。

吉見 家族と一緒に暮らした家はどこにあったのでしょうか。

李 中国、それも延辺。延辺の田舎。

梁 延辺の八道鎮というところで合っていますか。

李 うん。日本語で「はちどう」って言えばみんな分かる。

梁 「はちどうちん」ですかね？

李 うん。

吉見 最初の夫の家族とは何年くらい一緒に暮らしたんですか。

李 10年。10年。

2度目の結婚

吉見 10年経った後はどうしたんですか。

李 10年経った後は、また違う男と一緒になった。最初の夫の家で私をそこに嫁がせたの。だからそこに嫁いだのは強制的に行かされたんだよ。

梁 どうしてでしょう？ ハルモニがいないと暮らして行くのも大変でしょうに。

李 息子がいらないじゃない。息子が1年後に戻ると言っておいて10年経っても帰って来ないじゃない。だから息子が死んだと、私に他のところに行けって。ところが私が行かないでいたら、夫の叔母が無理矢理に私をその山奥の家を送ったのよ。そこは農業を営んでいた。

梁 元いた場所よりもっと山奥ですか。

李 もっと山奥。

梁 でも、最初の夫の家ではハルモニがないと困ると思うんですが、どうしてそんなに無理矢理に行かせたんでしょう。

李 分からない。それは私も分からない。ただ分かるのは夫がないから行けっていうだけで、詳しいことは分からない。私は行こうとしなかった。いつか夫が帰って来るって思ってたから、ところがいつまで待っても帰ってこない。だから行けって。

吉見 相手の男性、新しい男性はどういう人だったんですか。

李 いい人だった。中国共産党。

吉見 どんな仕事をしていたんですか。

李 農業。その人のところに行って、55年間、農作業をしてきました。

吉見 どれくらいの畑を耕していたんですか。

李 大きかった。

吉見 どんな作物をつくったんですか。

李 雑穀。粟、黍とか。

再婚した夫のこと

吉見 御夫君の名前はこれで合っていますか？

李 キム・ギファン。

梁 中国人ですか。

李 いや、違う。

梁 韓国人で、中国共産党員？

李 うん。

梁 この字で合ってますか。

李 間違ってる。全部違う。私は字は書けないけど、見れば分かる。「場所」を意味する「基」に「輝く」を意味する「奥」。

梁 金基奥？

李 うん、合ってる。

吉見 ご主人の金基奥さんも、勤労奉仕隊で連れて来られた人だったんですか。

李 うん、強制的に。強制的に連れて来られて、日本人の下で働いた。

梁 どういう仕事をしたんですか。

李 私には分からないよ。

梁 勤労報国隊というのは聞いたことないですか。

李 私は分からない。

吉見 ハルモニとご主人は何歳違いですか。

李 7歳違い。

吉見 子どもはいなかったんですか。

李 私は子どもが産めない。でも、夫には子どもが二人いた。だから、その子ども二人を育てたんだよ。

吉見 それは先妻の子ですか。

李 そう。

梁 子どもたちの母親は？

李 母親は死んだ。

吉見 ハルモニも共産党に加入したりしたんですか。

李 いいや。

吉見 一緒に何か活動した記憶はありませんか。

李 いや、ない。

吉見 一緒に長い間暮らされて、ご主人はいつ頃亡くなられたのですか。

李 もう17年になる。

梁 何歳で亡くなったんですか。

李 80歳。

梁 ハルモニは何歳だったんですか。

李 7歳違いだから。

梁 73歳？

李 うん、そのくらい。

韓国への帰国

吉見 韓国に帰るきっかけはどのようなものだったのでしょうか。

李 夫が死んで、この家〔ナムムの家〕で呼んだから来た。2000年6月1日にここに来た。

梁 政府に申告したのはいつですか。

李 ここに来てから申告した。

梁 ここ〔ナムムの家〕ではどうやってハルモニを見つけたんですか。

李 分からないよ。どうやって見つけたんだか。私には分からない。

梁 当時の所長は現在の安信権さんですか。

李 ちがう。

梁 高麗大学の教授が手伝ってくれたんですか。

李 うん、その人が少し手伝ってくれた。その人が手伝ってくれたのは、〔その人は〕ここ〔韓国〕の人だから、私の家族を見つけてくれたの。私の家族を見つけて、私を連れて来て、会わせてくれたの。その人とは今では電話連絡してないから分からない。その人に出会ったのは、ここに入る前に会ったの。家族を見つけてくれて、私が韓国に来て家族に会ってまた〔中国に〕帰ってから、また来た。

梁 その高麗大学の教授にはどうやって出会ったんですか。

李 その人が中国で大学に通ってたんだよ。その先生が下宿していた家のおばさんが私のことをよく知ってたの。その人が私の歴史を知って、その人〔教授〕に、このハルモニは本当に可哀想な人だから助けてあげてくれと。それでその先生が私の家族を見つけて会わせてくれたの。

梁 その頃はまだ夫は生きていたんですか。

李 うん、生きてた。

梁 では、一緒に来たんですか。

李 いや、夫は来ないで、私一人で来て帰った。

梁 夫はハルモニの歴史を知っていましたか。

李 知ってたさ。

梁 ハルモニが話したんですか。

李 いや、私は言ってない。他の人が話した。私はそんなこと言えないよ。いいことでもないのよ。やたらと言えないでしょ。言わないよ。

梁 ハルモニが言えないのに、周りの人はどうして知っていたんですか。

李 それは最初の嫁ぎ先が教えたから。

知り合いの元「慰安婦」について

梁 ハルモニの周りにハルモニと同じような歴史を持った方はいませんでしたか。

李 いた。

梁 一緒に〔韓国に〕来なかったんですか。

李 来なかった。そのハルモニは亡くなったから。

梁 ハルモニが〔韓国に〕来る前に？

李 うん。

梁 その方のお名前は？

李 ハ・オッチャ。

梁 ハ・オッチャさんは韓国政府に申告はしなかったんですか。

李 しました。してから亡くなったんです。

梁 中国にしながら申告したんですか。

李 いや、ここに来て申告した。

梁 あ、韓国に来て住んだことがあるんですか。

李 いや。韓国に来て申告した。

梁 あ、では韓国に来て申告だけして？

李 うん。

梁 亡くなったのはどこで？

李 中国で亡くなった。

梁 ハルモニの家の近くに住んでいたんですか。

李 私は山奥に住んで、そのハルモニは延吉市内に住んでた。

梁 どういうふう知り合ったんですか。
李 道を歩いていて会ったんだよ。私たちは同じ家にいたから、ハ・オッチャと私は同じ家にいたの。
梁 ああ、同じ慰安所にいたんですか。
李 うん。
梁 解放後に偶然会ったんですか。
李 うん。
梁 延吉市内で？
李 うん。
梁 その後は行き来しながら過ごしたんですか。
李 行き来しながら過ごしたよ。
梁 ハルモニがいらっしやった山奥の村の名前は何か。
李 八道鎮。八道からさらに山奥に入らないといけない。
梁 最初に嫁に行ったところが八道鎮ですか。後で行ったところが八道鎮ですか。
李 最初に行ったところが八道鎮。
梁 後で行ったところは？
李 後で行ったところも八道鎮。
梁 同じ八道鎮だけど、もう少し山奥ってことですね。
李 うん。
吉見 ハ・オッチャさんと年齢はどちらが上なんですか。
李 ハ・オッチャ。
梁 いくつ上ですか。
李 分からない。2歳上か3歳上か、よく分からない。とにかく上。
吉見 大きな、引越した後の慰安所で一緒だったんですか。
李 その前に会った〔最初の小さい慰安所の時に会った〕。
梁 そして大きな慰安所に移った後も一緒だった

んですか。
李 うん。
梁 じゃあ、行ってすぐに会ったんですね。
李 うん。
梁 ハルモニが行った時には、もういた人ですか。
李 うん、いた。

再婚相手の夫と家族のこと

吉見 ハルモニが慰安所にいたことを夫が知った時にどんな反応でしたか。
梁 再婚した相手の人、金基奂さんは最初からハルモニが慰安婦だったことを知ってて結婚したんですか。
李 金基奂は2番目の夫。
梁 その2番目の夫の金基奂さんは、ハルモニの歴史を初めから知っていましたか。
李 うん。最初の婚家で話したから。
梁 では、知ってて結婚したということですね。
李 うん。
梁 それについて何か言ったりすることがありましたか。
李 ない。
吉見 育てた二人の子供は今、どうしているんですか。
梁 二人の子供は男の子ですか、女の子ですか。
李 息子一人、娘一人。
梁 今、その子供たちはどうしていますか。
李 娘は北朝鮮で暮らしていて、息子は中国の延辺でそのまま暮らしてる。
梁 娘さんはどうして北朝鮮に行くことになったんですか。結婚ですか。
李 分からないよ。どうして行ったんだか。黙って行っちゃったから。
梁 ハルモニがいる時に行ったんですか。

李 うん。

梁 突然？

李 うん。

梁 両親に何も言わずに？

李 言わずに、黙って逃げちゃった。

梁 じゃあ、どうして北朝鮮だって分かったんですか。

李 手紙が来たから。

吉見 2番目の夫は朝鮮のどこの出身ですか。

李 あの人の故郷は北朝鮮。

梁 北朝鮮のどこですか。

李 平壤。

申告のこと、日韓「合意」のこと

吉見 申告して良かったと思っていますか。

李 良かったと思えないでしょ。私たちが何か言ったら、何か効果がなきゃだめじゃない。でも、効果がないじゃない。私たちが口が痛いくら

い言っても、効果がないから、いいんだか、良くないんだか、私たちには分からないよ。最後にどうなるか見ないと分からないよ。

吉見 自分の過去を隠して暮らすよりも、堂々と訴えたのは良かったんじゃないですか。

李 今日、話したのは本当に細々と話したよ。もうこれ以上、言うことはない。

吉見 日韓「合意」についてどう思われますか。

李 「合意」は間違ってる。

梁 どのように間違っているんですか。

李 私たち被害者と合意しなきゃ。どこに行っても合意してるの。間違ってるじゃない。合意というのは、あんなふう合意するんじゃない。私たちが被害者と合意するべきでしょ。それなのに他のところに行って合意してる。これは完全に間違い。

吉見 長時間、貴重なお話をしていただき、ありがとうございました。

（商学部教授・日本現代史）